

第2章 長宮遺跡第34地点の本調査

I 遺跡の立地と環境

長宮遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面の台地東側をおりた一段低い立川段丘面に立地している。この低位の段丘面には「熊の山」と呼ばれた山林を湧水源とする清水が流れ（現在は排水溝として利用）、幅100mほどの緩い小支谷を形成し、清水の北側左岸に滝遺跡、南側右岸に長宮遺跡が分布する。北東側は荒川低地の沖積地と接し、500m南側には福岡江川が流れ、標高9～10m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北300m、東西500m以上ある。宅地開発が進むが部分的に畑が残っている。

遺跡の西方には長宮氷川神社があり、この神社の縁起伝承には「長宮千軒町」として繁盛したが、戦国期に壊滅した旨が記されている。周辺の遺跡は、北側に縄文時代早・前期、古墳時代前・後期から奈良・平安時代の遺跡である滝遺跡、南側には飛鳥・奈良・平安時代、中近世の松山遺跡が隣接する。1977年の保育園建設に伴う緊急調査で中世の屋敷地と思われる遺構

群を検出したのをはじめ、宅地造成などにより2013年12月現在46ヶ所で調査を行っている。主たる時代と遺構は縄文時代早期後葉から前期・中期・後期前葉までの集落跡、南側の松山遺跡寄りに飛鳥時代の住居跡、中世末から近世初頭の屋敷跡や長宮氷川神社参道に關係のある溝跡などである。

II 本調査に至る経過と調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2011年6月2日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内に位置するため、原因者と協議の結果、遺構などの存在を確認するための試掘調査を実施した。

試掘調査は2011年6月27日から7月16日まで行った。幅約1.5mのトレンチ5本を設定し重機で表土除去後、人力による表面精査を行い、縄文時代早期の炉穴や前期の住居跡、土坑、ピット、近世以降の井戸や溝等を確認した。旧石器時代の確認調査は行っていない。開発予定区域の遺跡確認面までの深さは、近



第3図 長宮遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第2表 長宮遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間（ ）は試掘調査	面積(m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1次	長宮2-1-23	1977.10.3～30	1,000	保育園	溝3、土坑48、柱穴	川崎遺跡(第3次)・長宮遺跡
2次	長宮2-1-27	1978.4.25～5.15	235	民間宅地	溝2、土坑1、石臼、板碑、砥石、古銭、陶器、馬骨	埋(Ⅰ)
3次	長宮2-5-11	1978.7.24～30	111	民間宅地	土坑1	埋(Ⅰ)
4次	長宮1-1-14	1978.10.6～9	37		住居跡1、土師器、須恵器、鉄製品	埋(Ⅰ)
5次	長宮2-5-2	1979.4.16～20	110		縄文前期住居跡1、縄文土器片	埋(Ⅱ)(Ⅳ)
6次	中丸1-4-13	1980.4.21～30	515		遺構なし、中世以降陶器片	埋(Ⅲ)
7次	中丸1-3-6	1980.5.13～31	869		溝、井戸跡、縄文土器、中世以降陶器片	埋(Ⅲ)
8次	長宮2-1-10～13	1980.9.8～10.8	1,900	宅地造成	中世溝、井戸、土坑、板碑、砥石、陶磁器、古銭、馬歯	遺調1集
9次	長宮1-4-10	1980.9.21～30	200		遺構なし、中世以降陶器片	埋(Ⅲ)
10次	長宮2-3-4	1980.12.5～15	485		溝、土坑他、縄文前期土器・石器、中世以降古銭・陶器	埋(Ⅲ)
11次	長宮2-2-10	1980.12.16～22	117		溝、縄文土器片、中世以降陶器	埋(Ⅲ)
12次	長宮1-2-7	1981.5.26～30	160	個人住宅	溝1、中世陶器片、縄文土器片	埋(Ⅳ)
13次	長宮1-2-13	1981.6.3～11	251	個人住宅	遺構なし、中世陶器片	埋(Ⅳ)
82試	長宮1-2-12		1,000	歴史民俗資料館	溝2	57年教要
14次	長宮2-2-1	1985.9.24～27	156	個人住宅	溝1	埋(Ⅳ)
15次	西原2-5-8	1985.10.22～31	116	個人住宅	なし	埋(Ⅳ)
85試	長宮1-2-11	(1986.3.6～15)	400	学童保育	溝2	60年教要
16次	長宮1-4-7	1986.6.9～17	173	個人住宅	縄文土器片	埋(Ⅳ)
17次	中丸1-3-11	1987.6.19～30	504	個人住宅	縄文前期土器散布	埋(Ⅳ)
88試	長宮1-3-8	(1988.9.13～16)	657	住宅建設	なし	埋(Ⅳ)
89試(1)	長宮1-3-9	(1989.9.20～30)	448	住宅建設	なし	埋(Ⅳ)
89試(2)	長宮2-5-19	(1989.11.14～24)	1,778	住宅建設	なし	埋(Ⅳ)
90試	長宮2-5-4	(1990.11.27～30)	919	共同住宅	なし	埋(Ⅳ)
18次	長宮2-5-3	1992.10.6～12.2	925	共同住宅	縄文住居跡1、中近世土坑2、溝5	埋(Ⅳ)
19次	長宮1-2-21,35	1993.12.17～1994.1.22	467	駐車場	古墳末期住居跡1	埋(Ⅳ)
93試	長宮2-4-2の一部	(1994.2.10～28)	1,502	共同住宅	溝2、土坑1、中世後期板碑	5年教要
94試	西原2-5-1	(1994.7.25～8.2)	314	心身障害者デイケア施設	断面図形溝1	埋(Ⅳ)
20次	長宮2-1-22の一部	1995.4.10～5.9	170	個人住宅	中近世溝4	埋(Ⅳ)
21次	長宮2-1-63,65	(1995.6.19～8.8)	361	個人住宅	中近世溝1、井戸7	埋(Ⅳ)
95試(1)	長宮2-1-20外	(1995.8.9～28)	421	市道敷設	なし	埋(Ⅳ)
95試(2)	上ノ原3-1-6外4華	(1995.10.4～12)	1,528	共同住宅	溝1	埋(Ⅳ)
95試(3)	長宮2-1-60	(1995.10.23～25)	269	駐車場	中近世溝1、井戸4	埋(Ⅳ)
22次	長宮2-1-60	1995.10.27～11.9	269	駐車場	中近世井戸跡4、溝1、陶器、板碑破片、かわらけ、	遺調6集
95試(4)	長宮1-3-13	(1995.12.12～25)	120	駐車場	なし	埋(Ⅳ)
96試(1)	長宮1-2-16	(1996.7.12～18)	349	宅地造成	なし	埋(Ⅳ)
96試(2)	中丸2-2-9他3華	(1996.11.7)	568	宅地造成	なし	埋(Ⅳ)
96試(3)	長宮1-2-4	(1997.1.14～21)	794	共同住宅	古墳～奈良住居跡1	埋(Ⅳ)
96試(4)	長宮2-2-4	(1997.2.24)	205	社務所改築	なし	8年教要
97試(1)	長宮2-3-3	(1997.4.8～9)	611	農地天地返し	溝1(時期不明)	埋(Ⅳ)
97試(2)	長宮2-1-2	(1997.4.9～11)	289	個人住宅	土坑1(時期不明)	埋(Ⅳ)
97試(3)	長宮1-2-36,37	(1997.6.4～5)	423	駐車場	溝1	埋(Ⅳ)
97試(4)	西原2-5-6	(1997.8.15～21)	753	駐車場	中近世堅穴状遺構1	埋(Ⅳ)
98試	中丸1-2-4	(1998.11.24～27)	1,014	宅地造成	なし	埋(Ⅳ)
99試	中丸1-3-12	(1999.11.8～16)	98	個人住宅	溝1、縄文前期集石2	埋(Ⅳ)
00試(1)	中丸1-4-7	(2000.7.4～11)	932	宅地造成(土地分譲)	縄文前期(関山期)住居跡5、土坑13	埋(Ⅳ)
00試(2)	西原2-4-8,10	(2000.7.17～24)	1,081	宅地造成(土地分譲)	なし	埋(Ⅳ)
00試(3)	長宮2-1-17	(2000.8.21～23)	687	共同住宅	なし	埋(Ⅳ)
00試(4)	長宮1-3-3A,4A	(2001.1.17～23)	1,119	宅地造成(土地分譲)	近世以降土坑1	埋(Ⅳ)
23次	中丸1-4-7	2001.7.18～26	137	個人住宅	土坑6(縄文早期後葉1、前期4、近世以降1)	埋(Ⅳ)
01試(1)	長宮2-1-3	(2001.4.20～24)	330	個人住宅	なし	埋(Ⅳ)
01試(2)	西原2-4-7	(2001.5.25)	634	共同住宅	なし	埋(Ⅳ)
01試(3)	中丸1-1-3	(2001.8.7～24)	513	共同住宅	道路状遺構1、縄文前期土坑1	埋(Ⅳ)
01試(4)	長宮2-8-6	(2001.11.6)	130	個人住宅	なし	13年教要
02試(1)	長宮1-3-2～5	(2002.6.5～11)	3,536	宅地造成(土地分譲)	住居跡2【盛土保存】	埋(Ⅳ)
02試(2)	長宮1-4-3	(2002.6.20～7.2)	575	確認調査	住居跡2、溝2	埋(Ⅳ)
02試(3)	中丸1-1-5	(2002.9.3～11)	622	宅地造成(土地分譲)	道路状遺構1	埋(Ⅳ)
02試(4)	長宮1-3-31	(2002.9.20～25)	362	地区計画道路	溝1	埋(Ⅳ)
24次	長宮1-4-3	2003.1.30～2.14	72	個人住宅	住居跡2	14年教要
02試(5)	長宮2-5-6	(2003.3.10～12)	827	宅地造成	住居跡1【盛土保存】	14年教要
03試(1)	長宮2-5-30,32	(2003.9.16)	197	区画道路	なし	埋(Ⅳ)
03試(2)	長宮2-4-7	(2003.12.16～18)	1,123	宅地造成	井戸跡1	埋(Ⅳ)
04試(1)	中丸1-1-11	(2004.11.26)	488	宅地造成	なし	埋(Ⅳ)
04試(2)	長宮1-2-15	(2004.12.7～9)	466	農地改良	なし	埋(Ⅳ)
25	中丸1-4-8	(2007.2.15～16)	1,161	個人住宅	ピット3、縄文土器・石器他	市内3
26	西原2-5-2の一部	(2007.3.28)	594	個人住宅	縄文土器片	市内3
27	長宮2-1-4	(2007.5.30～31)	175	個人住宅	溝、保存措置	市内4
28	長宮2-1-8	(2007.5.31～6.5) 2007.6.6～22	188	個人住宅	中近世井戸5、土坑10、ピット13他、縄文土器・石器、中近世陶磁器他	市内4
工事立会	西原2-5-31	2007.10.15	120	個人住宅		市内4
29	長宮2-4-6の一部	(2007.11.20～12.3) 12.4～5	618	共同住宅	土坑1、井戸2、堀跡1、溝5、ピット10、縄文土器、中近世土器他	市内4
30	長宮2-4-6	(2009.9.28～11.2) 11.4～12.8	1362.1	老人福祉施設	中近世土坑、井戸、ピット8、溝2、縄文土器・石器、中近世陶磁器他	市内7、8
31	欠番					
32	長宮2-1-18	(2010.1.15～25) 2011.2.4～26	271	分譲住宅	中近世土坑20、ピット142、溝3、縄文土器、中近世陶磁器他	市内7、8
33	中丸1-3-2	(2011.5.19～5.31)	534	分譲住宅	堀跡1	未報告
34	中丸2-2-2,46	(2011.6.27～7.16) 2011.11.2～12.1	914	分譲住宅	縄文時代早期炉穴、前期(関山)住居跡1、近世溝、縄文土器他	市内11
35	上ノ原3-1-4	(2011.9.9～27)	1157.88	共同住宅	縄文時代焼土跡1	未報告
36	長宮2-4-3	(2011.10.4～17) 10.21～11.14	981	個人住宅	中近世井戸15、土坑5、溝15、ピット多数、板碑他	市内11
37	上ノ原3-6-6	(2011.11.8)	105	個人住宅	なし	未報告
38	長宮1-4-27	(2011.11.24～25)	101	分譲住宅	なし	未報告
39	長宮2-3-23	(2012.2.1)	130.54	個人住宅	なし	未報告
40	西原2-5-7の一部	(2012.4.16)	201	個人住宅	遺構なし、縄文土器片	未報告
41	福岡字丸橋988-1～3、989-2～5、990-3	(2012.4.17～5.31) 6.11～7.23	1,152.62	分譲住宅	炉穴1、焼土面1、落とし穴1、土坑12、ピット33、溝1、縄文前期土器片・石器、近世陶磁器等	市内12

※埋：上福岡市教育委員会埋蔵文化財の調査報告書、上遺調：上福岡市遺跡調査会報告書、教要：上福岡市教育要覧、市内：ふじみ野市市内遺跡群報告書

世以降の時期で約 80 cm、縄文時代では約 120 cm である。しかし造成のため表土層の削平が約 60 cm 行われ、遺跡への影響が避けられないことから原因者と再度協議の結果、原因者負担による本調査を実施した。ただし南東と北西隅の二区画と通路（駐車場部分）については、雨水等の浸透トレンチの設計変更などにより工事立会とし、本調査の対象区域から除外した。

本調査は遺跡の確認された区画を、2011 年 11 月 2 日から 12 月 1 日まで、重機により除去し人力による調査を行った。試掘調査と本調査で確認された遺構は、縄文時代早期炉穴 7 基、前期住居跡 1 軒、落とし穴 1 基、土坑 11 基、ピット 25 基、近世以降の井戸 9 基、溝 3 本などある。遺物は縄文時代早期から前期の土器、石器、近世以降の陶磁器などである。

III 遺構と遺物

(1) J 9 号住居跡

【位置】長宮遺跡の縄文時代前期の集落配置でみると、北側に位置する。今回の調査区では中央部の南端に位置する。

【形状】住居跡の北西隅の約 1/4 を検出したため、全体の形状は不明である。

検出部の平面形態は隅丸方形を呈し、長軸（3.95）

m、短軸（3.3）m、確認面からの深さ 0.92 m である。

住居跡の床面直上には炭化材・炭化物層が広範囲に広がり、上層には焼土層が堆積する。消失竪穴建物の可能性も考えられる。

【炉】住居の北側に 2 ケ所の炉が位置する。平面形態は不整楕円形で一部が重複している。北側の炉は南北（52）cm、東西 68 cm、深さ 8.6cm である。南側の炉は南北 70 cm、東西 51 cm、深さ 9.6cm である。

【床・壁】床面は平坦で上屋消失時に被熱した焼土面が広がり、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

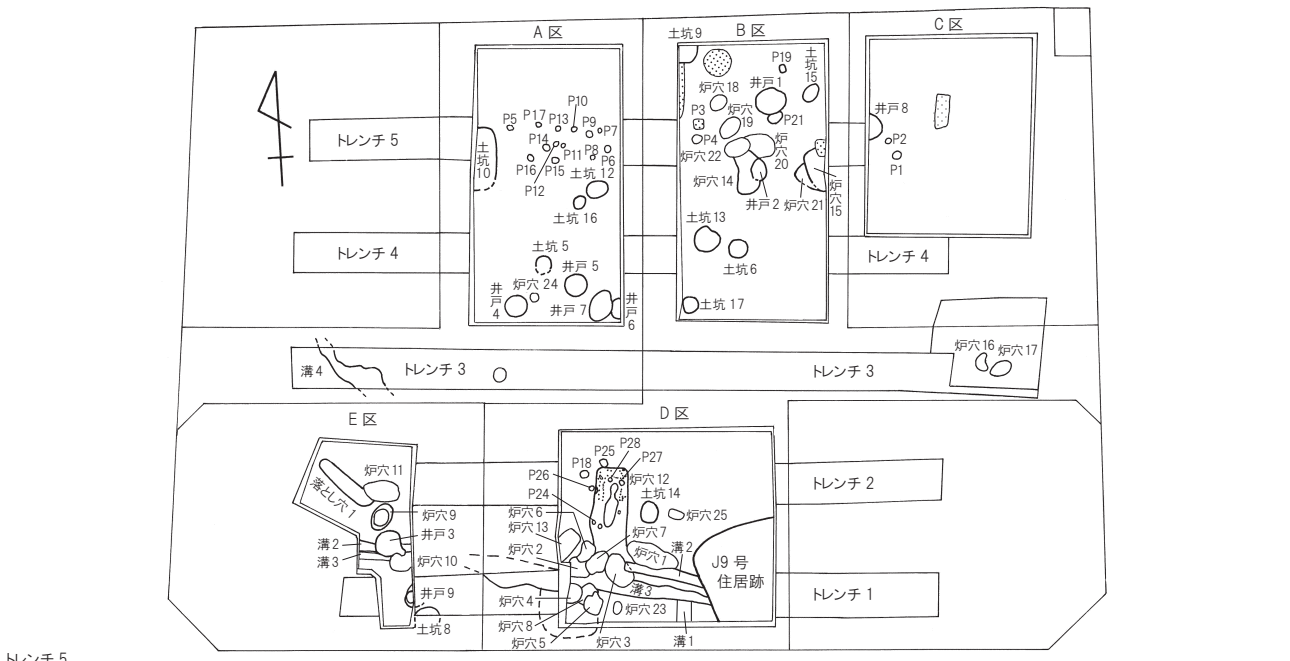
【ピット】支柱穴は P11・13・14・16・17 である。壁際の壁柱穴は 23 基検出した。P12・15・24・25 は支柱穴か壁柱穴か不明である。P1・26、P 5・30、P10・22、P11・16 は住居の拡張や建て替えに伴う新旧の柱穴とみられる。

【遺物出土状況】出土遺物は床面直上の炭化物層と焼土層のさらに上層の覆土層から集中して出土する。

【時期】時期は出土土器から関山 I 期である。

【出土遺物】（第 7 図・8 図）

1 は、二股波頂部の土器。風化が激しいが、口縁部文様は、鋸歯状に平行に沈線を描き、沈線間を梯子状に埋めている。鋸歯状文間は、沈線で渦巻きと半円を



トレンチ 5

I. 暗褐色土 締り有、粘性有、ローム主体に 5mm 以下白色粒含む、耕作土・表土

II. 褐色土 締り有、粘性有、ローム主体に黒褐色土極少含む、ビニール袋含む、盛土・表土

III. 黒褐色土 締り強、粘性強、シミ状に赤褐色の酸化鉄を多量に含む、見た目には灰色であるが土色帖では黒褐色である

IV. 暗褐色土 締り強、粘性有、II 層主体に 1cm 以下シミ状・ブロック状ロームやや多く含む、同灰白粘土（III 層も少し含む）

V. 灰黄褐色土 白く見えるが黄褐色～褐色を呈する

VI. 暗褐色土 締り強、粘性強、5mm 以下赤褐色酸化鉄シミ状に多く含む、土器含む

第 4 図 長宮遺跡第 34 地点遺構配置図 (1/300)

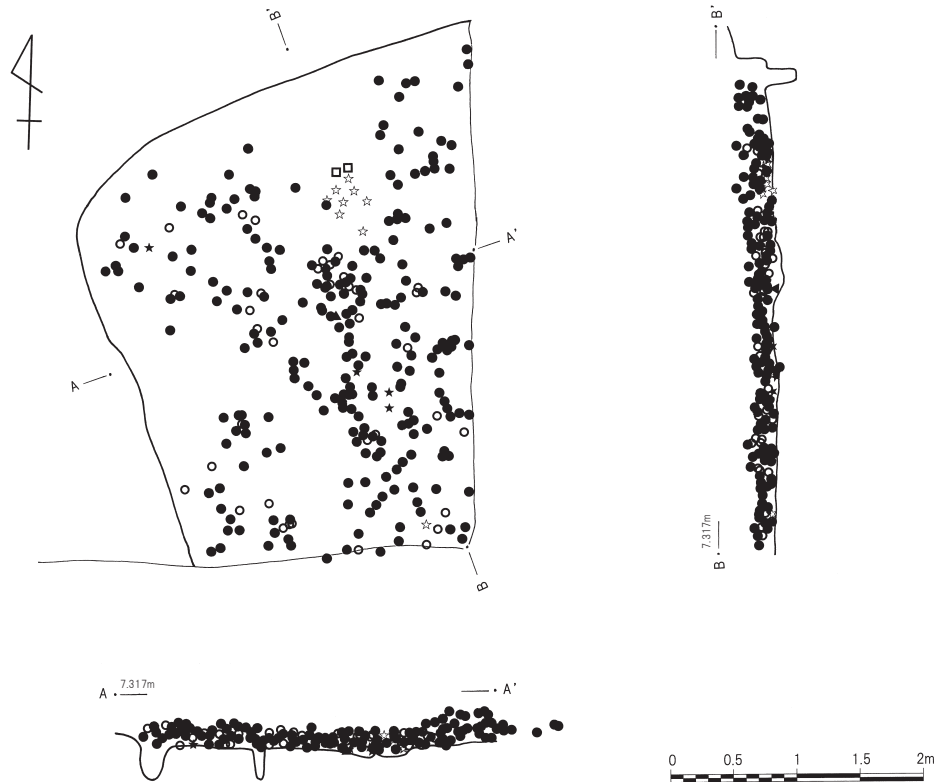
加飾。口縁部文様帯と胴部文様帯の境には、梯子状沈線で区画している。胴部文様は末端還付を多段に施す。2は、1/4程現存。波状口縁の土器。波頂部破片とそれ以下の破片は接合しないので、復元図に示した器形は実際は口縁部文様帯が短くなるかもしれない。口唇部には三角形の粘土の貼付、波頂部に刻みを入

れた楕円形の貼付文を付ける。口縁部文様は幅7～8mmの半截竹管による平行沈線で、始点や交叉点に円形貼付文が付く。胴部縄文はLRの末端還付（以下ループ文という）文を4段施し（多段ループ文）、その下にはループの0段3条のLRとRLの斜縄文で羽状縄文帯、その下にはループの0段3条のLRとRLを多

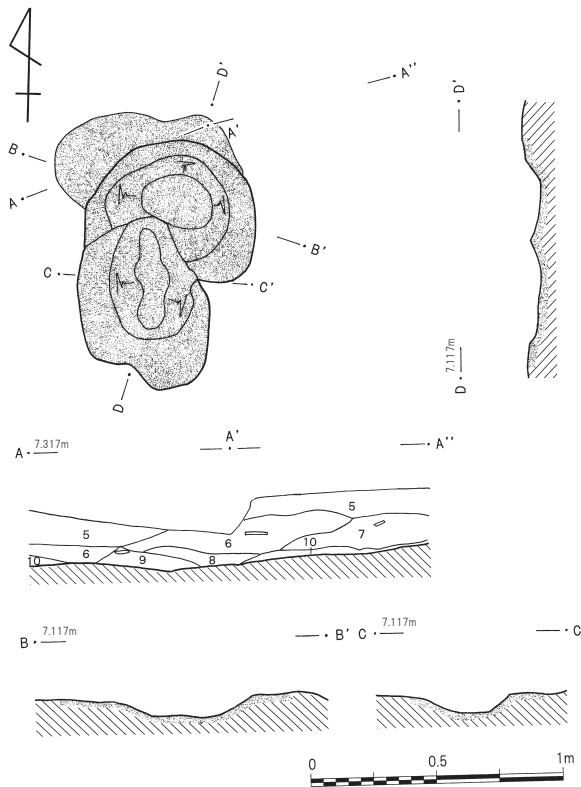


第5図 長宮遺跡第34地点J9号住居跡(1/60)

J9 号住居跡遺物出土状況図



炉



J9 号住居跡

I a. ローム主体の盛土

I b. 灰色土

II a. 灰色土混じりの黒褐色土

II b. ローム混じりの黒褐色土

0. 住居覆土

1. 黒褐色土 締り強、粘性強、II a と比べ色調に褐色味が有り、やや明るめ、シミ状の灰色粘土と褐色の 3mm 以下ローム粒をやや多く含む
 2. 黒灰色土 締り強、粘性強、4 層に似て、5mm 以下白色粘土・炭化物・焼土を多く含む、灰色粘土を含む点で上層の影響を受けている
 3. 灰黒色土 締り強、粘性強、シミ状に灰色粘土を多く含む、2mm 以下ローム粒やや多く、5mm 以下焼土・炭化物少し含む
 4. 白色粘土 締り強、粘性強、3cm 以下炭化物を多く含む 2 ～ 3cm 厚黒褐色土を挟む、橙褐色の酸化土が目立つ
 5. 黒褐色土 締り強、粘性強、3mm 以下ローム粒を多く、5 ～ 20mm ロームブロック・5mm 以下炭化物少し含む
 6. 黒褐色土 締り強、粘性強、上層より黒色味強い、3mm 以下ローム粒やや多く（3 層より少ない）、5 ～ 10mm ロームブロック・5 ～ 20mm 炭化物少し含む
 7. 黒褐色土 締り強、粘性強、主体の土は 6 層に似る、大きめの 5mm 以下ローム粒多く、5 ～ 40mm ロームブロック・5mm 以下焼土・5 ～ 20mm 炭化物少し含む
 8. 暗褐色土 締り強、粘性強、シルト質の暗褐色焼土主体、シミ状に黒褐色土を含む、炉の覆土ではない
 9. 黒褐色土 締り強、粘性強、5 ～ 10mm ロームブロック・3mm 以下ローム粒を多く、3 ～ 10mm 焼土をやや多く含む、炉の覆土、小さなロームブロックを多く含むのは、ピットの覆土と類似
 10. 黒色土 締り強、粘性強、炭化物を多く含む、炭化物由来と思われる黒色土主体、5mm 以下ローム粒・焼土やや多く含む
 11. 黒褐色土 締り強、粘性強、2mm 以下ローム粒・焼土少し含む
 12. 黒色土 締り強、粘性強、10 層に似る、シミ状に 2mm 以下ローム粒・焼土少し含む
 13. 黒褐色土 締り強、粘性強、5mm 以下ローム粒多く含む
- ピット
1. 黒褐色土 締り強、粘性強、3mm 以下焼土・炭化物多く含む
 2. 黒褐色土 締り強、粘性強、やや灰色味が有り、粘性強い
 3. 黒褐色土 締り強、粘性強、黒色味強い、5mm 以下ローム粒やや多く含む
 4. 黄灰色土 締り強、粘性強、5mm 以下ローム粒を多く、5mm 大炭化物少し
 5. 黄灰色土 締り強、粘性強、シミ状に 5mm 以下ローム粒少し含む
 6. 黄灰色土 締り強、粘性強、2cm 以下ロームブロック・粒多く含む
 7. 黄灰色土 締り有、粘性強、締り弱め、シミ状に 5mm 以下ローム粒少し～やや多く含む

第 6 図 長宮遺跡第 34 地点 J9 号住居跡遺物出土状況図 (1/60)、炉 (1/30)

段化して施す。上からほぼ等間隔で、多段ループ文帯＋羽状縄文帯＋多段ループ文帯を構成している。

3は、1/4現存。4単位波状で、頂点直下に楕円形の貼付文が付く。口唇部には波頂部両脇に3個の粘土粒を加え、口縁部文様は幅6mmの半截竹管による平行沈線で鋸歯文様がつけられ、その直下に5～6段の多段ループ文と、先端ループにしたLRとRLの斜縄文による羽状縄文帯、幅6mmのコンパス文、上段と対になるようにRLとLRの斜縄文による羽状縄文帯、上段と連続的に対応した先端ループのRLとLRの羽状縄文帯が施される。およそループ文で区画された等間隔の文様帯からなる。

4は、約1/4現存。平縁の土器。口唇部には4個の小突起、その直下には円形の貼付。上から順に、先端をループのRLとLRの斜縄文による羽状縄文帯、4から5段の多段ループ文帯、先端ループのRLとLRの斜縄文による羽状縄文帯、8から9段の多段ループ文帯で構成される。上半は区画された各文様帯は等間隔で、図示した最下段の文様帯が他の文様帯の倍の間隔である。

5は、1/5現存。口縁部文様帯には、幅6mmの肉厚の半截竹管による平行線で集合沈線の鋸歯文を構成し円形の貼付文を付ける。その下、縄文帯はいずれも端末ループを上にして斜縄文で羽状縄文帯で構成する。上下の羽状縄文帯が対応する菱形縄文帯になるのは、図示した最下段のみである。菱形縄文になるのを避けているようにも思われる。3・4もそうなのだが、縄文帯がループ文やコンパス文で区画され、または多段ループ文帯によって、菱形縄文となるのを回避しているのではないか。

6は幅4mmの半截竹管で平行線を引き、梯子状に沈線を描き、その間を鋭いへうで細かい刻み状に加えたもの。7も円形添付文を加え、半截竹管で平行線の文様を加えたもの。8は、比較的大きい円形の添付文、9は口縁部をループ文を施し、円形の添付文を付けたもの。10は半截竹管により鋸歯文に鋸歯状の起点に先端の尖る円形貼付。正反の合の縄文を施す。11は半截竹管によるかまぼこ状の爪形で鋸歯文を描いたもの。

12は、半截竹管の工具による集合沈線で鋸歯文を描き、鋸歯文の間を半円形の文様を交互に充填したもの。胴部文様帯の境には波状の文様。13は半截竹管による集合沈線を鋸歯文とし、その間を半截竹管を器

面に垂直に押したもの。14は、端末ループを上にして0段3条のLRとRLで羽状縄文。直下に多段ループ文を施す。補修孔が器面表面よりあけられている。

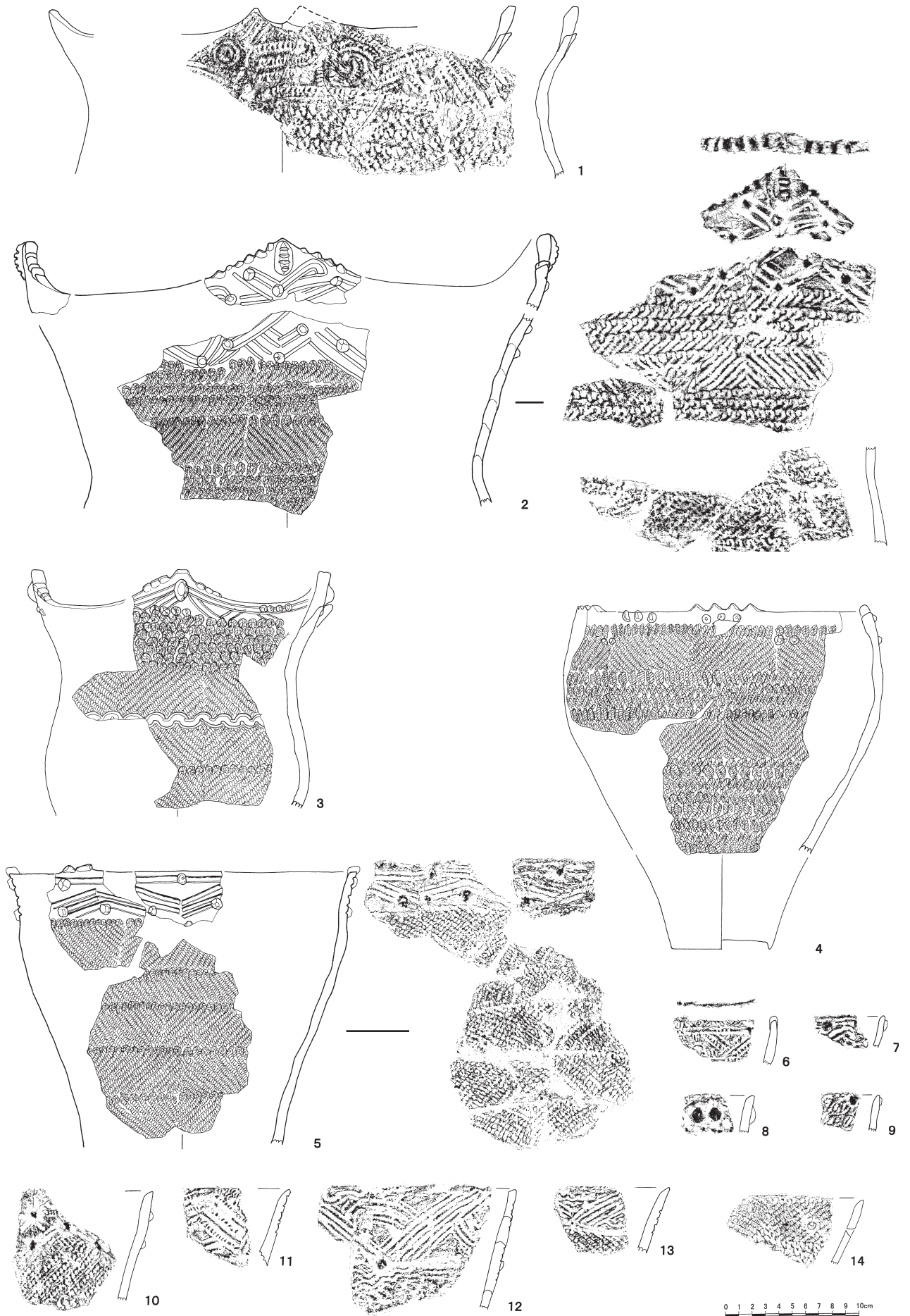
15は、胴部下半の破片で風化が激しい。胴下半部に端末ループを上にして1段ずつ施文して7～8段の多段化したものである。コンパス文を加えさらに0段3条のRLの端末ループを多段化したもの。その下にはコンパス文がある。16は15の同一破片か。図示した左側に補修孔がある。コンパス文の間に多段化したループ文で最下段にRLとLRの結節第1種の羽状縄文が施される。17は、器厚が5mm程度で薄い。4mm程度の白色の小砂利（石英）を含み、白色の砂を多量に含む。図示上半部は、細いRLとLRの縦回転による羽状縄文が施され、下半部には太いRLの端末ループの多段化がうかがわれる。

18は、LRとRLによる結節第1種の羽状縄文。19は、Lの無節の斜縄文で半截竹管によるコンパス文を施文。20～23は0段3条で菱形縄文になるもので、いずれも0段3条のうち1本は細い。同一個体ではない。20・21は第1種結束、くびれ部に端末ループ文を施文。23には結束部の反対の原体端末を1mmの紐で縛った回転痕跡がある。

24と25は、正反の合による異条斜縄文。26と27は0段による組紐。28は、土器破片を利用した円形土製品で、文様はみられない。

29～33は底部の破片。29は、0段3条のRLと0段2条LRを図示のように交互に羽状縄文としたもので、端末ループ文で区画している。30は風化が著しいがループ文を多段化して底部端まで施したもの。31は、正反の合の縄を菱形文として底部端まで施したもの。32は0段3条のLRとRLで羽状縄文。33は、0段3条の原体で羽状縄文を造るが、細い紐で結束部が横位に付いているものと思われる。胎土には白色の砂が混じり内面と底部底は良好に研磨されている。34～38はループ文やコンパス文がみられないもの。34は、無節RLと単節RLによる菱形縄文で、RLは縦回転、RLは横回転により菱形縄文を構成する。補修孔がつく。35は単節RLと無節Lrによる結束第1種による羽状縄文である。36・37は単節LRとRLによる羽状縄文で36は接合箇所が下半に上半の粘土が重なり段をなす。38には胎土に白色の砂が多量に混じる。

J9号住居跡出土土器は、全て胎土に繊維を含む。

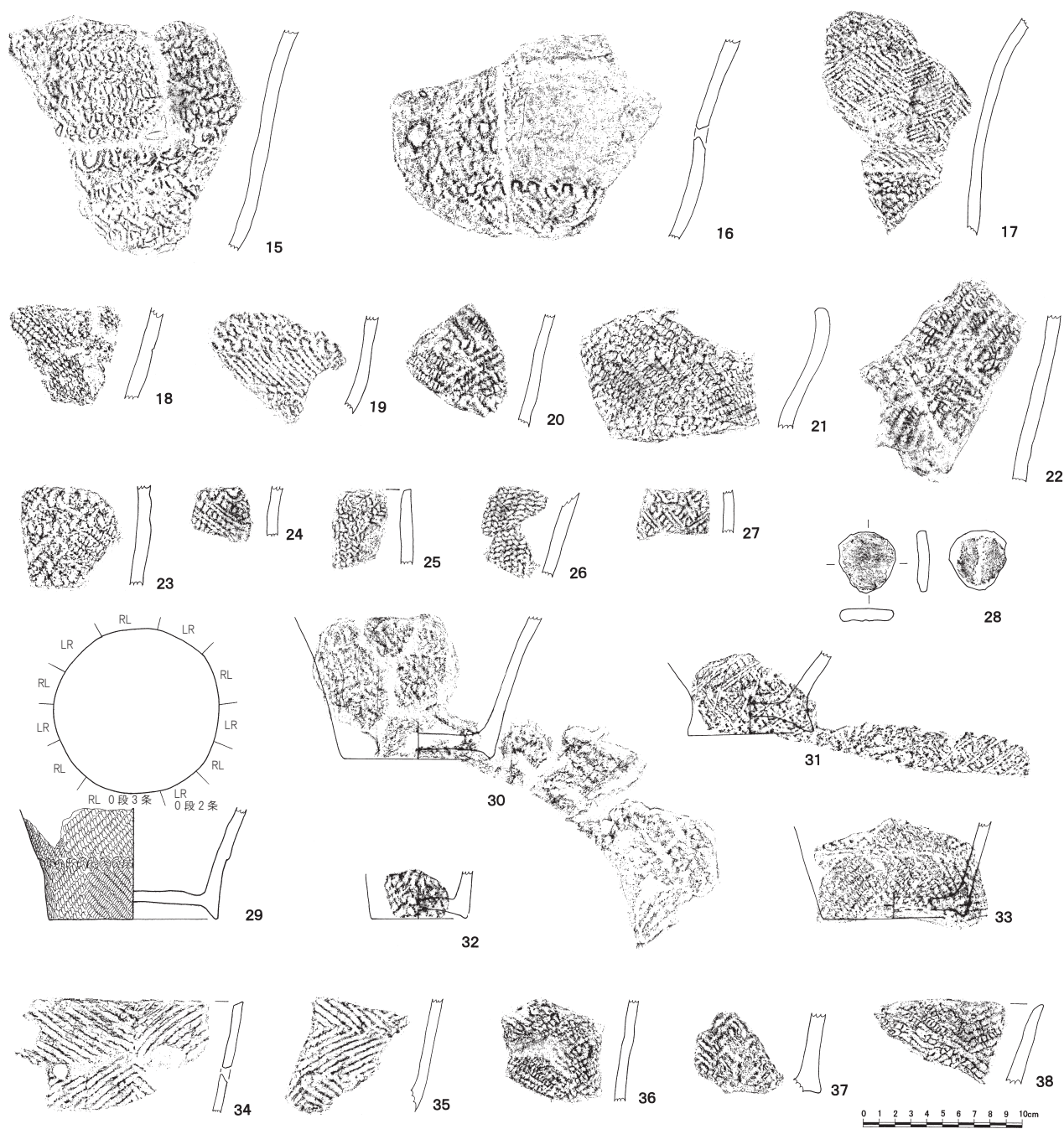


第7図 長宮遺跡第34地点J9号住居跡出土遺物① (1/4)

第 3 表 長宮遺跡第 34 地点 J9 号住居跡ピット一覧表（単位 cm）

No.	平面形態	確認面径	底 径	深 さ	備 考
P1	槽円形	26 × 15	4 × 3	36.4	
P2	円形	23 × 22	7 × 6	50.5	
P3	円形	19 × 15	5 × 4	30.0	
P4	槽円形	36 × 24	11 × 4	66.4	
P5	不明	30 × 21	7 × 6	34.6	
P6	円形	33 × 25	6 × 5	81.3	
P7	不明	(23) × 21	4 × 3	41.2	
P8	槽円形	35 × 25	3 × 3	51.2	
P9	ひょうたん形	35 × 22	12 × 9	75.0	
P10	円形	25 × 21	6 × 3	34.4	
P11	円形	26 × 20	4 × 2	70.6	
P12	円形	28 × 24	16 × 14	33.9	
P13	円形	17 × 12	11 × 6	57.8	
P14	円形	16 × 14	5 × 5	53.3	
P15	不明	18 × (10)	6 × 3	26.3	
P16	円形	16 × 15	8 × 8	58.3	

No.	平面形態	確認面径	底 径	深 さ	備 考
P17	不明	15 × 10	5 × 4	40.8	
P18	円形	12 × 11	5 × 3	53.1	
P19	円形	15 × 10	5 × 3	20.2	
P20	不明	16 × (8)	-	40.0	
P21	不明	(16) × 13	3 × 3	30.0	
P22	円形	27 × 24	14 × 9	38.9	
P23	円形	20 × 17	5 × 5	30.3	
P24	円形	12 × 11	3 × 3	24.2	
P25	円形	13 × 10	3 × 2	26.0	
P26	不明	20 × (13)	9 × 7	35.4	
P27	槽円形	16 × 11	4 × 2	17.8	
P28	円形	14 × 13	6 × 2	43.1	
P29	円形	24 × 16	9 × 4	21.7	
P30	円形	21 × 18	6 × 5	20.1	
P31	不明	(16) × 15	5 × 4	24.0	



第 8 図 長宮遺跡第 34 地点 J9 号住居跡出土遺物②（1/4）

遺物の時期については1～33は関山式Ⅰ、34～38は関山式から黒浜式のものと思われる。(笹森健一)

(2) 炉穴

炉穴は、C区を除く各調査区とトレンチ3から15基検出した。特にB・D・E区に集中する。燃焼部の焼土範囲の他に、通称「足場」と呼ばれる窪み等のあるものや、炉穴12では周囲に小ピットを巡らせる。詳細は第4表のとおりである。

(3) 落とし穴

落とし穴はE区で検出した。炉穴11と重複し、落とし穴が古い。平面形態は長楕円形を呈し、確認面径250×50cm、底径266×22cm、深さ89cmである。

(4) 井戸

井戸は9基検出した。平面形態はほぼ円形で素掘りである。覆土層の観察から中近世以降のものと思われる。詳細は第5表のとおりである。

(5) 土坑

土坑は11基検出した。土坑1・2は炉穴14・15に、土坑3・7は井戸8・9に変更し、土坑4・11は欠番である。詳細は、第5表のとおりである。

(6) ピット

ピットは31基検出した。ピット20は土坑15にピット22は土坑16、ピット17は土坑23に変更した。時期については縄文時代以降とみられるが不明である。詳細は第5表のとおりである。

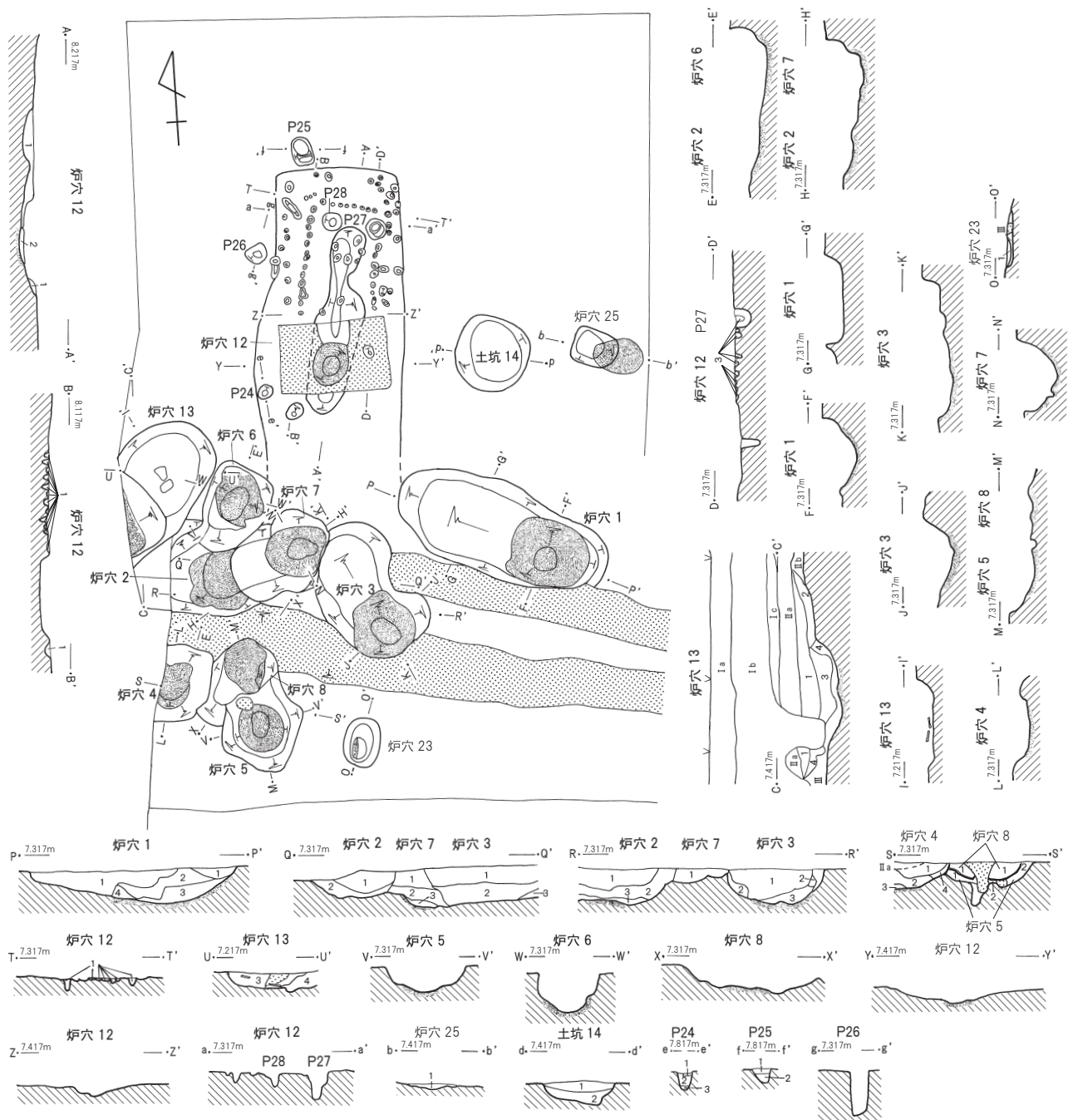
第4表 長宮遺跡第34地点炉穴一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	焼土範囲	足場	備考
炉穴1	楕円形	210×85	24×19	34.5	77×61		
炉穴2	不明	75×71	(45)×28	18.9	58×(54)		
炉穴3	ひょうたん形	134×80	31×20	33.2	59×59		
炉穴4	不明	72×(47)	37×(26)	22.2	45×26		
炉穴5	不明	97×70	24×15	25.2	46×43		
炉穴6	方形	86×60	36×22	39.3	55×43		
炉穴7	ひょうたん形	100×72	29×19	35.8	60×49		
炉穴8	不明	90×(47)	52×40	23.3	53×40		
炉穴9	楕円形	91×66	16×15	20	34×27		
炉穴10	不明	(86)×68	(77)×55	18.7	43×18		
炉穴11	楕円形	155×77	39×31	27.4	42×35		
炉穴12	ひょうたん形	180×47	18×17	15	41×32		
炉穴13	不明	(116)×85	68×(63)	17.5	55×15		
炉穴14	楕円形	173×88	117×42	37.3	39×35		旧土坑1
炉穴15	不明	(180)×(80)	(70)×49	39.5	41×30		旧土坑2
炉穴16	不整形	68×42	33×33	9.1	-		旧焼土1
炉穴17	楕円形	98×56	45×28	13	-		旧焼土2
炉穴18	楕円形	76×55	65×43	6.8	29×20		旧焼土3
炉穴19	楕円形	100×73	10×7	53.9	24×15		旧焼土4
炉穴20	不明	(102)×99	(95)×(97)	19.7	63×26		旧焼土5
炉穴21	不明	(103)×(54)	(41)×(35)	20	33×25		旧焼土6
炉穴22	隅丸方形	91×57	65×46	20.4	26×15		旧焼土7
炉穴23	楕円形	47×34	20×15	7.8	18×(7)		旧焼土8
炉穴24	円形	40×38	15×12	5.4	12×9		旧焼土9
炉穴25	不整形	69×35	25×23	4.6	49×34		旧焼土10

第5表 長宮遺跡第34地点井戸・土坑・ピット一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
井戸1	円形	105×103	62×55	116.8	
井戸2	円形	92×78	53×50	109.1	
井戸3	円形	109×104	82×78	121.2	
井戸4	円形	82×73	52×52	90.8	
井戸5	円形	85×78	21×20	139.2	
井戸6	不明	75×(48)	63×(40)	67.0	
井戸7	楕円形	134×80	65×57	147.7	
井戸8	不明	101×(39)	101×(22)	91.1	
井戸9	不明	77×(36)	73×(30)	97.8	
土坑1					炉穴14に変更
土坑2					炉穴15に変更
土坑3					井戸8に変更
土坑4					欠番
土坑5	不明	65×(47)	43×(40)	19.5	
土坑6	円形	93×84	72×69	57.5	
土坑7					井戸9に変更
土坑8	不明	85×(25)	23×9	84.8	
土坑9	不明	(87)×(83)	(63)×(55)	43.4	
土坑10	不明	(201)×(84)	62×(35)	29.3	
土坑11					欠番
土坑12	円形	88×70	66×42	19.8	
土坑13	不整形	97×90	70×52	69.9	
土坑14	円形	72×71	55×48	18.4	
土坑15	円形	71×69	49×47	49.7	
土坑16	円形	60×55	44×43	74.2	
土坑17	円形	69×63	46×42	60.2	
P1	不明	28×(17)	12×(10)	30.9	

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
P2	円形	29×25	18×16	28.2	
P3	不明	48×(36)	35×(32)	33.4	
P4	円形	31×27	20×12	35.4	
P5	円形	26×25	12×12	24.3	
P6	円形	27×25	15×10	36.9	
P7	方形	19×18	9×8	21.4	
P8	不明	26×(12)	14×(6)	22.9	
P9	円形	35×34	19×15	23.7	
P10	円形	26×24	14×13	26.0	
P11	円形	20×19	6×6	41.7	
P12	円形	33×28	18×14	34.3	
P13	円形	29×28	16×15	18.6	
P14	円形	36×32	23×22	31.8	
P15	不明	29×(20)	20×(9)	20.8	
P16	不明	25×(12)	15×(5)	37.7	
P17	不明	27×(19)	15×(10)	36.2	
P18	円形	42×38	7×7	15.8	
P19	方形	37×31	11×5	59.5	
P20					土坑15に変更
P21	不明	(45)×43	25×21	29.5	
P22					土坑16に変更
P23					土坑17に変更
P24	円形	15×11	7×6	20.3	
P25	方形	28×19	14×5	12.3	
P26	円形	21×17	7×7	42.6	
P27	円形	19×19	9×5	26.0	
P28	円形	17×16	8×8	16.5	



I a. 表土 ローム土主体

I b. 灰黒褐色土 締り強、粘性有、やや黄色味を全体に帯び、2mm 大シミ状・粒状にロームを少し含む

II a. 灰黒褐色土 締り強、粘性有、I b 層に類するがやや黒っぽい

II b. 黄灰色土 締り強、粘性有、明黄褐色のローム土と黒褐色土が混ざり合う

炉穴 1

1. 焼土粒少ない点で炉穴 4 の 1 層に似る
2. 黒褐色土 締り強、粘性強、シミ状にシルト質の 5mm 以下焼土・焼土粒をやや多く含む
3. 赤褐色土 締り強、粘性強、シルト質の焼土主体、シミ状に黒褐色土少し含む
4. 黒褐色土 締り強、粘性強、明黄褐色ロームの 5mm 厚層を挟む、5mm 以下焼土やや多く含む

炉穴 2・4

1. 黒褐色土 締り強、粘性強、3mm 以下ローム粒やや多く、下層に比べ褐色味強い、炉穴 2 は 5mm 以下焼土少し含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性強、5mm 以下焼土・3mm 以下ローム粒やや多く含む
3. 赤褐色土 締り強、粘性強、3mm 以下焼土多く含む、黒褐色土
4. 黒褐色土 締り強、粘性強、シミ状に 1cm 以下明黄褐色ロームブロックを多く含む

炉穴 3

1. 炉穴 2 の 2 層に似る、1 ~ 3cm ロームブロック少し含む
2. 炉穴 8 の 1 層に似る
3. 赤褐色土 締り強、粘性強、黒褐色土主体に 1cm 以下焼土ブロックと、シルト質の焼土を多く含む

炉穴 7

1. 炉穴 5 の 1 層に似る
2. 黒褐色土 締り強、粘性強、上層より黒色味強く 5mm 以下ローム粒多く、5mm 以下焼土やや多く含む
3. 赤褐色土 締り強

炉穴 5

1. 黒褐色土 締り強、粘性強、シミ状に明黄褐色ローム土やや多く、3mm 以下ローム粒多く含む
2. 黄灰色土 締り強、粘性強、5mm 以下ローム粒多く、シミ状に明黄褐色ローム土多く含む

炉穴 8

1. 黒褐色土 締り強、粘性強、3mm 以下茶褐色ローム粒多く、3mm 以下焼土少し含む

炉穴 12・P27

1. 黒褐色土 締り強、粘性強、3mm 以下ローム粒少し含む
2. 赤褐色土 締り強、粘性強、黒褐色主体にシミ状の焼土を多く含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性強、2mm 以下ローム粒少し含む

炉穴 13

1. 黒褐色土 締り強、粘性強、5mm 以下ローム粒・焼土少し含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性強、褐色味が有る、ラミナ状にロームの薄層を挟む、5mm 以下ローム粒多く含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状に暗褐色土を含む、5 ~ 10mm 焼土・ローム粒少し含む
4. 黒褐色土 締り強、粘性強、2cm 大シミ状ローム土多く、5mm 以下焼土やや多く含む

炉穴 23

1. 赤褐色土 シミ状に黒褐色土が混ざる

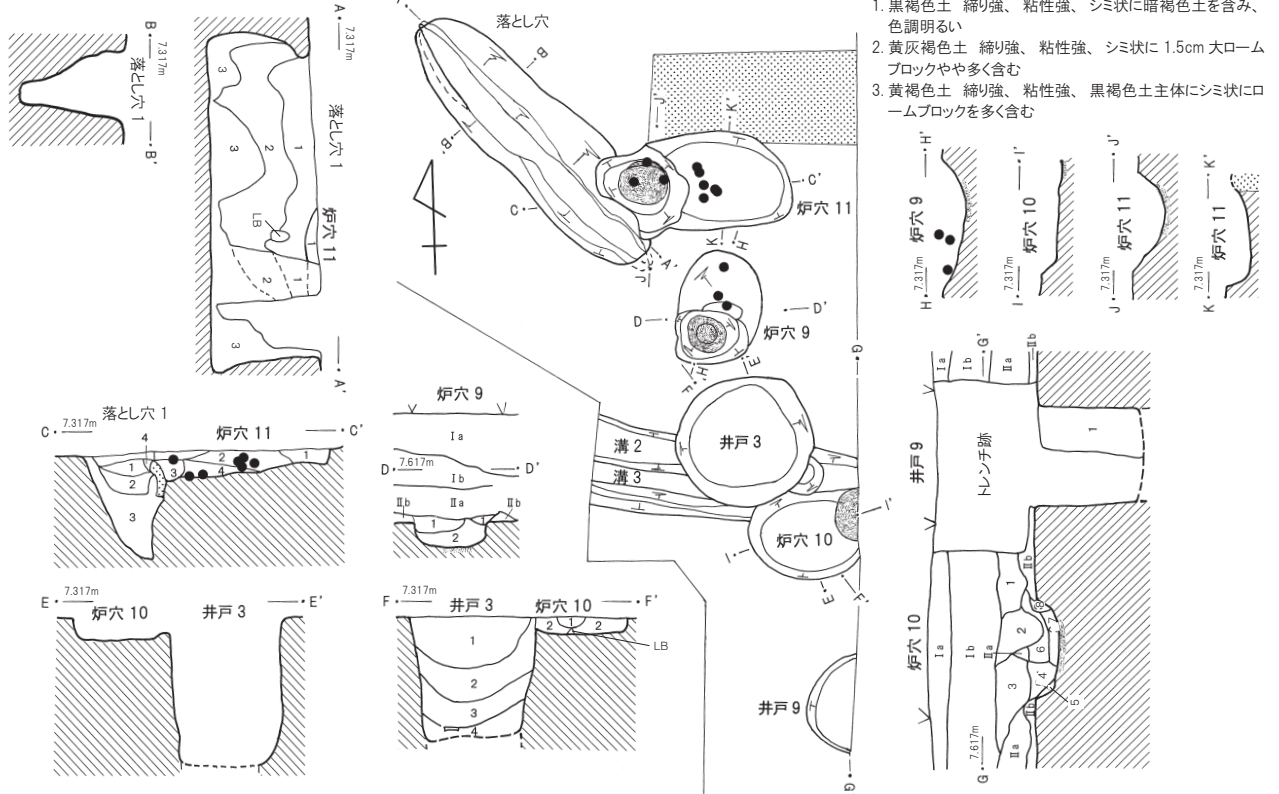
III. ローム地山

炉穴 25

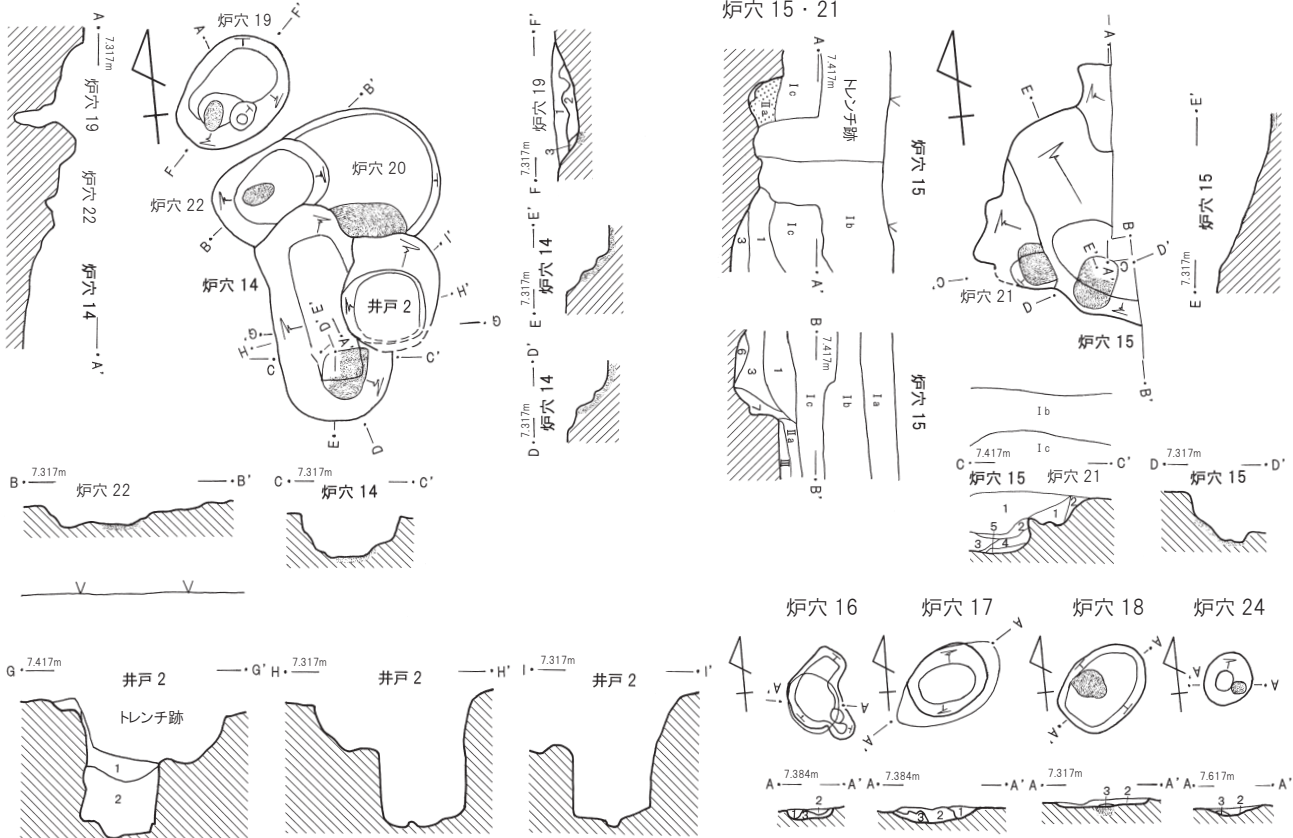
1. 黄灰色土 締り強、粘性強、焼土シミ状に多く含む、5mm 大炭化物シミ状に少し含む
- 土坑 14
1. 暗灰色粘土 締り強、粘性強、2cm 大白色粘土ブロック・5mm 焼土・5 ~ 10mm 炭化物少し含む
 2. 暗灰色粘土 締り強、粘性強、1 層より黒色味が有る、9cm 大礫・5 ~ 10mm 炭化物少し含む
- ピット 24・25
1. 褐色土 締り強、粘性有、ローム貼床状の硬化面
 2. 黒褐色土 締り弱、粘性有、1cm 以下シミ状ローム少し含む
 3. 暗褐色土 締り弱、粘性有、1cm 以下シミ状ロームブロック多く含む

第9図 長宮遺跡第34地点炉穴①・土坑① (1/60)

炉穴 9～11、井戸 3・9、落とし穴

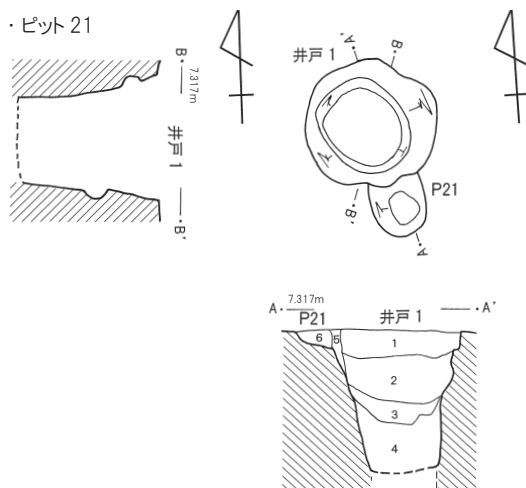


炉穴 14・19・20・22、井戸 2

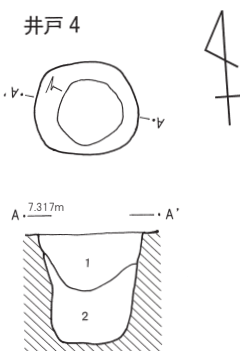


第 10 図 長宮遺跡第 34 地点炉穴②・井戸①・落とし穴 (1/60)

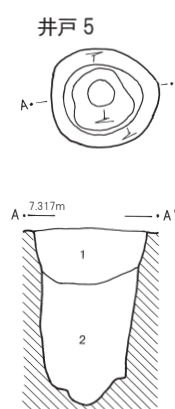
井戸1・ピット21



井戸4



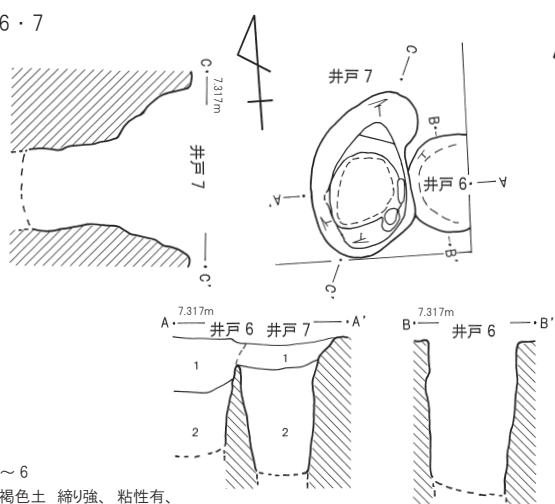
井戸5



井戸1・ピット21

1. 灰色粘土 締り強、粘性強、1cm以下褐色の酸化土やや多く含む
2. 灰色粘土 締り強、粘性強、5mm以下ローム粒少し、酸化土が目立つ
3. 黒褐色土 締り有、粘性強、含水してボソボソしている
4. 褐灰色土 締り有、粘性有、シミ状に黄白色土をやや多く含む、含水してボソボソしている
5. 明黄褐色粘土 締り強、粘性有
6. 黒褐色土 締り強、粘性強、2cm以下明黄褐色ロームやや多く含む、灰色味がある

井戸6・7



井戸4～6

1. 灰黒褐色土 締り強、粘性有、1cm以下ロームブロック・粒やや多く含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性強、5mm以下ローム粒少し含む、1層より締り弱め

井戸7

1. 黄褐色土 締り強、粘性有、2cm以下ロームブロック主体
2. 黒灰色土 締り強、粘性有、1cm大ロームブロック・焼土僅かに含む

井戸8

1. 黒褐色土 締り強、粘性強、3mm以下ローム粒やや多く含む、色調灰色味がある
2. 黒褐色土 締り強、粘性強、上層より黒色味強い、3mm以下ローム粒多く含む、色調灰色味がある
3. 黒褐色土 締り有、粘性強、さらに上層より黒色味強い、5mm以下ローム粒少し含む
4. 黒褐色土 締り有、粘性強、1cm以下ロームブロック・粒やや多く含む、含水してややボソボソしている

井戸9

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1cm以下シミ状ローム少し含む
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、全体にシミ状暗褐色ローム多く、1cm以下ロームブロック多く含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、1cm以下シミ状ローム少し含む、1層よりやや粘性強いがほぼ同じ、遺物多く出土

炉穴9

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下シミ状ローム多く、2mm以下焼土をシミ状に少し含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下シミ状ローム多く、同焼土を多量に含む

炉穴10

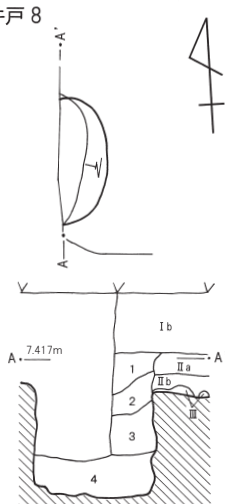
- I a. 表土（ローム土主体）
- I b. 灰黒褐色土 締り強、粘性有、やや黄色味を全体に帯びる、2mm大シミ・粒状にロームを少し含む

- II a. 灰黒褐色土 締り強、粘性有、I b層に類するがやや黒っぽい

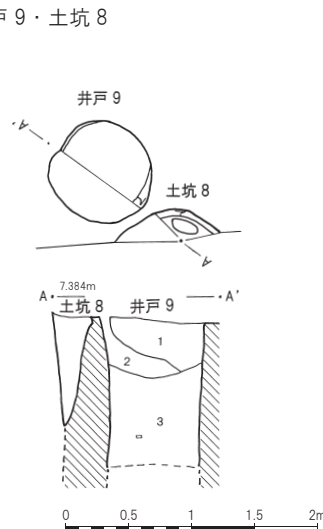
- II b. 黄灰色土 締り強、粘性有、明黄褐色のローム土と黒褐色土が混ざり合う

1. 灰色粘土 締り強、粘性強、5mm以下ローム土少し含む
2. 灰色粘土 締り強、粘性強、1層に似るが色調暗め
3. 灰色粘土 締り強、粘性強、2層に似るが色調明るめ、茶褐色の酸化土が目立ち、3mm以下焼土少し含む
4. 灰色粘土 締り強、粘性強、3層に似るが3～10mm黒褐色土ブロック粒をやや多く含む、5～15mmロームブロック少し含む
5. 黒灰色粘土 締り強、粘性強、3～15mmロームブロック・粒少し含む

井戸8



井戸9・土坑8



6. 黒褐色土 締り強、粘性強、シミ状に灰色土をやや多く含む、下層より色調明るめ2mm以下ローム粒やや多く含む
7. 黒褐色土 締り強、粘性強、5～10mmロームブロック少し含む、焼土は含まない
8. 黄褐色土 締り強、粘性強、III層より褐色味のある1cm大ロームブロック主体で、シミ状に黒褐色土を含む

炉穴11

1. 黒褐色土 締り強、粘性強、炉穴11とは別落ち込みの覆土、3mm以下ローム粒やや多く、下部にロームの薄層（厚さ5mm）を挟む
2. 黒褐色土 締り強、粘性強、2mm以下ローム粒・3～5mm焼土少し含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性強、5mm以下ローム粒・2cm以下焼土少し含む
4. 黒褐色土 締り強、粘性強、シミ状にローム土をやや多く含む、黄色味がある、5mm以下ローム粒多く、5mm以下焼土少し含む

炉穴14

1. 黒褐色土 締り強、粘性強、赤灰色土をシミ状に多く含む、3mm以下ローム粒多く含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性強、黒色味強い、5～20mmロームブロック少し、3mm以下ローム粒やや多く、5～10mm焼土少し含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性強、5mm以下ローム粒多く、5mm以下焼土やや多い
4. 黒褐色土 締り強、粘性強、1cm以下明黄褐色ロームブロック・粒多く、5mm以下焼土やや多く含む

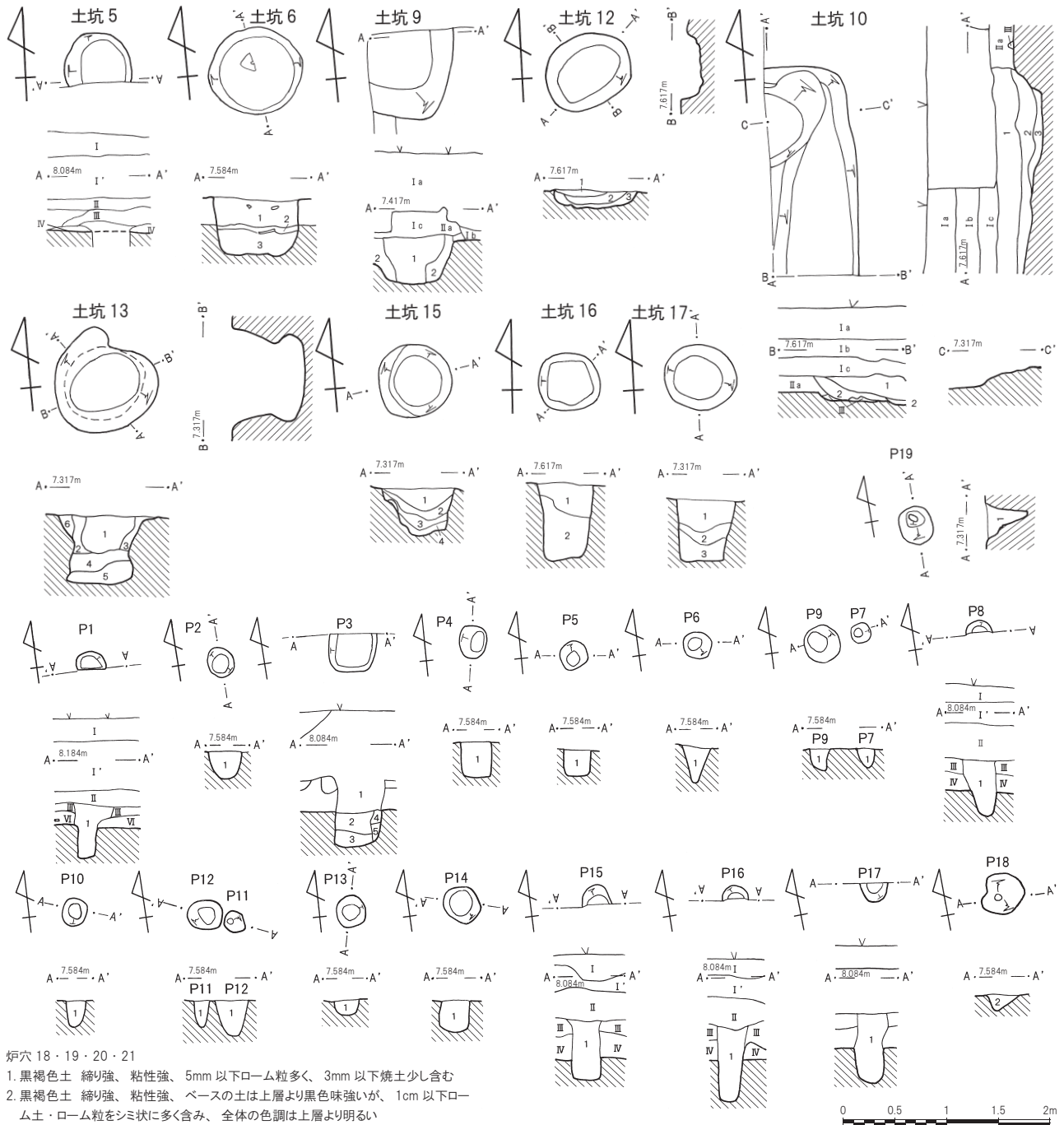
炉穴15

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、黒色味強い、2mm以下ローム粒やや多く、5mm以下焼土少し含む
2. 黄褐色土 締り強、粘性強、黒褐色土混じりのローム土主体、5mm以下焼土少し含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒・焼土多く含む
4. 黄褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土混じりのローム土主体、5mm以下焼土含む
5. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下焼土多く含む
6. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒多く含む、硬く締る
7. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状にソフト質ローム土を多く含む、黄色味がある

炉穴16・17

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm大ローム粒・焼土少し含む
2. 赤褐色土 締り強、粘性有、全体に赤褐色焼土層でシミ状に黒褐色土極少し含む
3. 暗褐色土 締り強、粘性有、暗褐色土主体にロームをシミ状に多く含む

第11図 長宮遺跡第34地点井戸②・土坑②・ピット①（1/60）



炉穴 18・19・20・21

1. 黒褐色土 締り強、粘性強、5mm 以下ローム粒多く、3mm 以下焼土少し含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性強、ベースの土は上層より黒色味強いが、1cm 以下ローム土・ローム粒をシミ状に多く含む、全体の色調は上層より明るい
3. 赤褐色土 締り強、粘性有、焼土

炉穴 21

- ①炉穴 18 の 1 層に同じ
- ②炉穴 18 の 2 層に同じ

土坑 6

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm 以下シミ状ローム粒少し含む、1cm 以下シミ状酸化鉄多く含む
2. 暗赤褐色土 締り強、粘性有、粘土層全体が酸化鉄で赤褐色を呈する
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下シミ状ローム粒少し含む、1・2 層より粘土質である

土坑 9

1. 黒褐色土 締り強、粘性強、3mm 以下ローム粒やや多く含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性強、ローム土をシミ状に多く含む、黄灰色味が有る、2mm 以下ローム粒多く含む、明黄褐色位 3cm 以下ロームブロック少し含む

土坑 10

1. 黒褐色土 締り強、粘性強、5mm 以下褐色土粒、2cm 以下灰色粘土を少し含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性強、上層より黒色味強い、1cm 以下褐色土・灰色粘土少し、1mm 以下細かな明黄褐色土粒やや多い
3. 黒褐色土 締り強、粘性強、明黄褐色ローム土をシミ状に多く含む、斑状を呈する
4. 黒褐色土 締り強、粘性強、シミ状にローム土を含み、色調明るい

土坑 12

1. 黒褐色土 締り強、粘性強、2mm 以下ローム粒少し含む、やや黄色味が有る

2. 黒褐色土 締り強、粘性強、3mm 以下ローム粒やや多く含む

3. 黒褐色土 締り強、粘性強、シミ状に明黄褐色土ロームをやや多く含む土坑 13

1. 黒褐色土 締り強、粘性強、(粘土ではない) 2mm 以下ローム粒均一に少し含む

2. 黒褐色土 締り強、粘性強、(粘土ではない) 2mm 以下ローム粒やや多く含む

3. 黒褐色土 締り強、粘性強、(粘土ではない) 5 ~ 20mm ロームブロック多く含む

4. 黒褐色土 締り強、粘性強、(粘土ではない) 2mm 以下ローム土・粒を多く含む、黄色味が有る

5. 黒褐色土 締り強、粘性強、(粘土ではない) 色調黒色味強い、3mm 以下ローム粒少し含む

6. 黒褐色土 締り強、粘性強、(粘土ではない) ローム粒は少ないが、黄灰色味が有る

土坑 15

1. 灰色粘土 締り強、粘性強、酸化土を多く含む、2cm 以下明黄褐色粘土少し含む、井戸 1 の 1・2 層に似る

2. 黒褐色土 締り有、粘性強、酸化した橙褐色 5mm 以下ローム粒、シミ状に灰色粘土を多く含む

3. 黒灰色粘土 締り強、粘性強、5mm 以下ローム粒少し含む

4. 黒褐色土 締り有、粘性強、5mm 以下ローム粒少し含む

土坑 16

1. 灰黒褐色土 締り強、粘性有、1cm 以下ロームブロック・粒やや多く含む、P23 の 1 層に似る

2. 黒褐色土 締り強、粘性強、5mm 以下ローム粒少し含む、1 層より締り弱め、P23 の 2 層に似る

土坑 17

1. 黒灰色粘土 締り強、粘性強、灰色粘土を主体にシミ状に黒褐色土・黄灰色粘土を多く含む

2. 黄灰色粘土 締り強、粘性強、1 層より含水して締り弱め、1cm 以下ローム土シミ状にやや多く含む

3. 灰黒色粘土 締り強、粘性強、シミ状に黄灰色粘土を多く含む、やや酸化が目立つ

第 12 図 長宮遺跡第 34 地点土坑③・ピット② (1/60)

(7) 溝

溝は 4 本検出した。試掘調査時に溝 1 としたもの
は、J 9 号住居跡の覆土層である。溝 2 は溝 3 より古
く、共に近世以降の時期である。溝 5 は溝 3 より新し
いが、溝 2 との新旧関係は不明である。

(8) 炉穴、井戸、土坑、ピット、溝出土遺物

【炉穴・井戸出土遺物】(第 14 図 1 ～ 26)

1・2 は炉穴 2 出土、3 は炉穴 3 出土、4 は炉穴
6 出土、5・6 は炉穴 9、7 ～ 11 は炉穴 11 出土、
12・13 は炉穴 13、14 ～ 16 は炉穴 14 出土、17 は
炉穴 15 出土土器である。

1 ～ 7、9 ～ 13 は内外面に条痕文を施し、胎土に
は繊維を含む、早期後半の条痕文系土器である。3 は
器厚がやや薄く焼成良好で、胎土に繊維を含むか微妙
である。5 は厚手の土器で胴部から外反する頸部をへ
て口縁部に至る。口縁は波状口縁で、口唇部には竹管

状工具による押圧による刻目がみられる。

8 は L r の捺糸文を施文し胎土に繊維を含まない、
早期前半の捺糸文系土器である。

12 は口縁部で横位から斜位に条痕文を施す。

14 は軸縄 R L に 2 本の L r を付加する。15 は胴部
と底部に貝殻背圧痕を施す。14、15 は前期黒浜式か。

16 は砂岩製の打製石斧片で、重さ 110.80 g である。

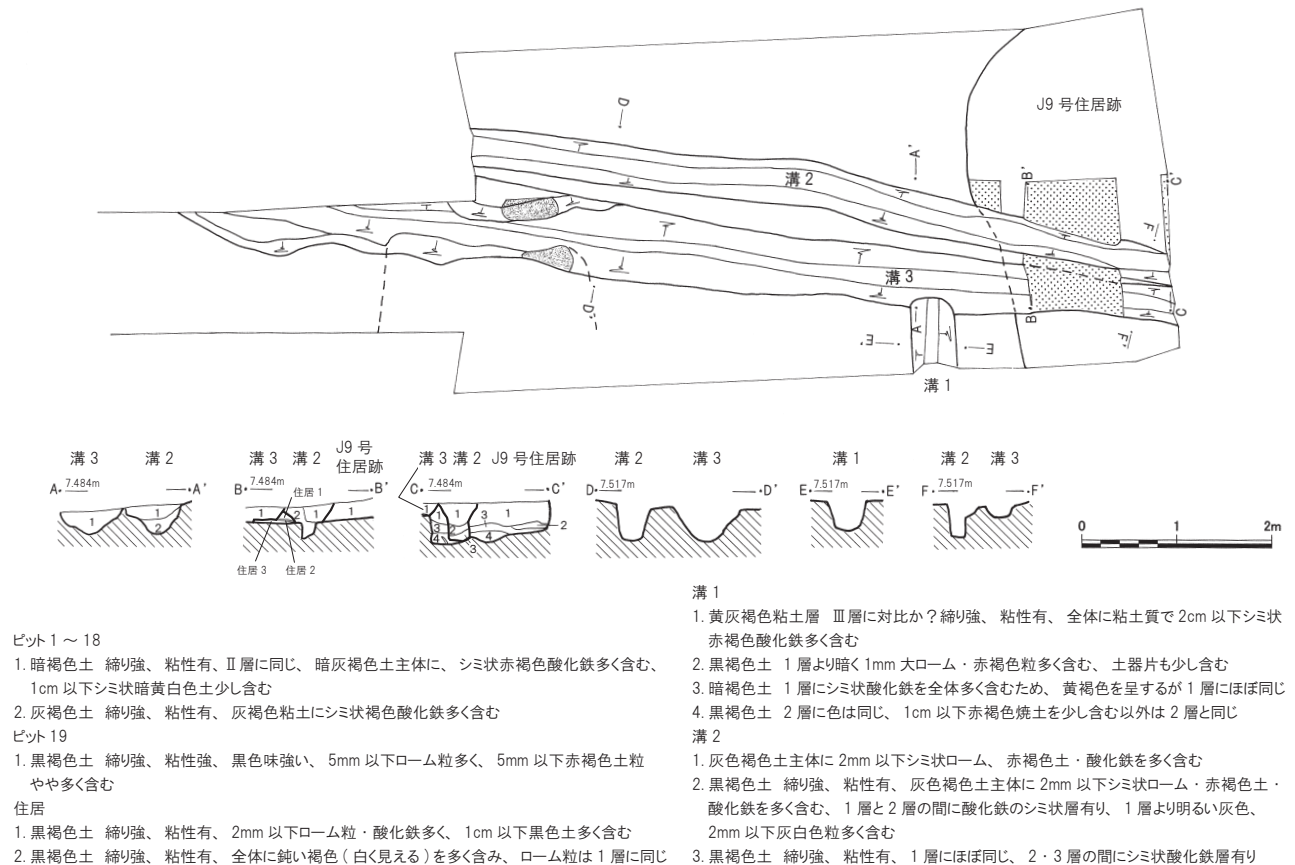
17 は 3 段の文様帯がみられ、上段から R L に 2 本
の L r を逆巻方向に付加したもの、中段は組紐 L R
R、下段が R L 縄文とみられる。前期関山式か。

【井戸・土坑・ピット・溝・遺構外出土遺物】(第 15
図 27 ～ 43)

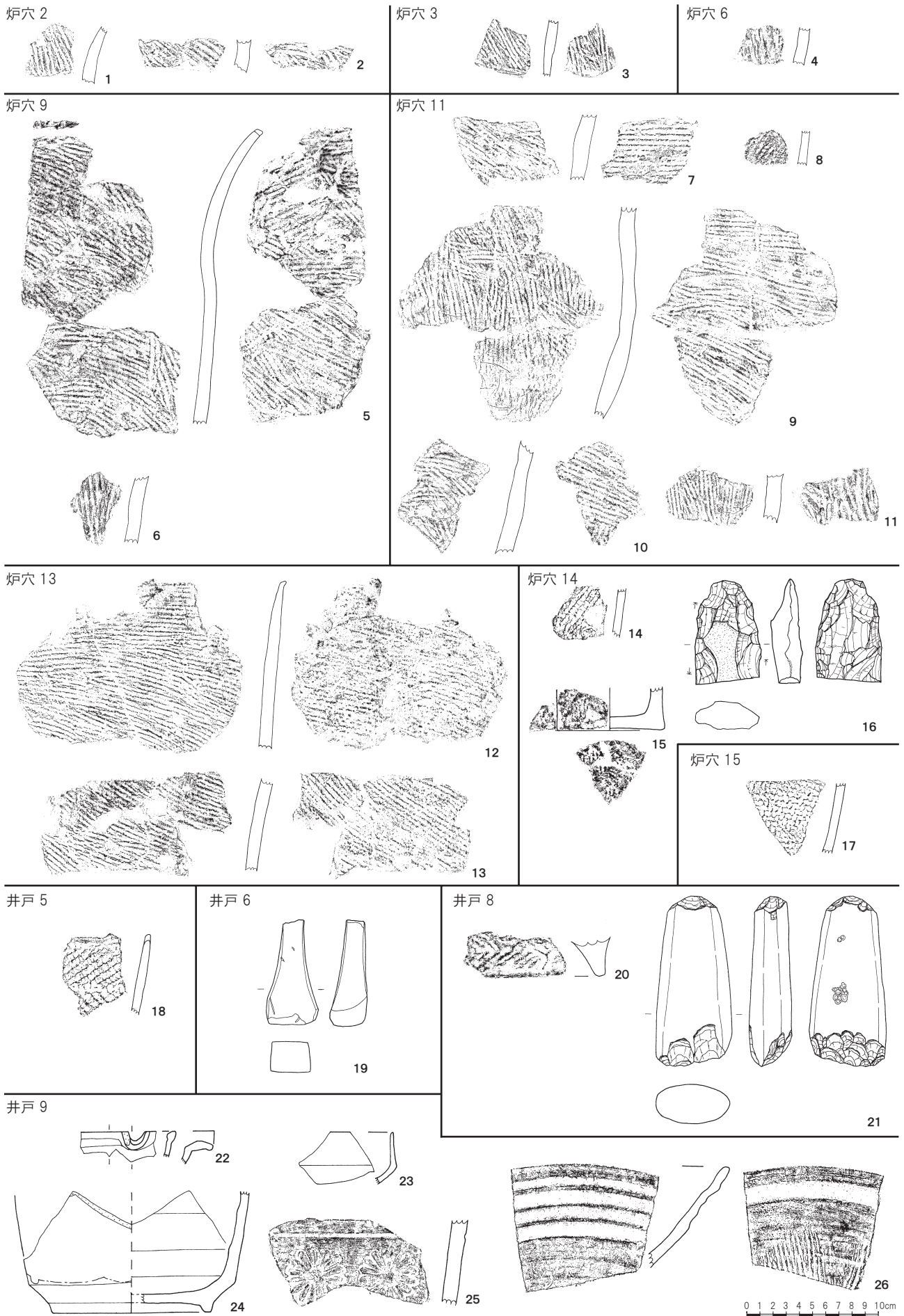
18 は口縁部に小突起を持ち L R と R L 縄文で羽状
縄文とする。20 は上げ底の底部で L R、R L 縄文を
施す。18、20 は関山式である。27 は還付末端の L
R 縄文を施文し胎土に繊維を含む関山式土器である。

第 6 表 長宮遺跡第 34 地点溝一覧表 (単位 cm)

No.	断 面 形 態	確 認 面 径	底 径	深 さ	備 考
溝1	「U」字形	76 × 46	70 × 14	37.7	
溝2	「U」字形	1410 × 33 ～ 62	1410 × 12 ～ 27	50.1	
溝3	広い「U」字形	1315 × 35 ～ 85	1315 × 10 ～ 18	40.8	
溝4	「U」字形	223 × 38 ～ 71	223 × 16 ～ 45	39.9	



第 13 図 長宮遺跡第 34 地点溝 (1/80)



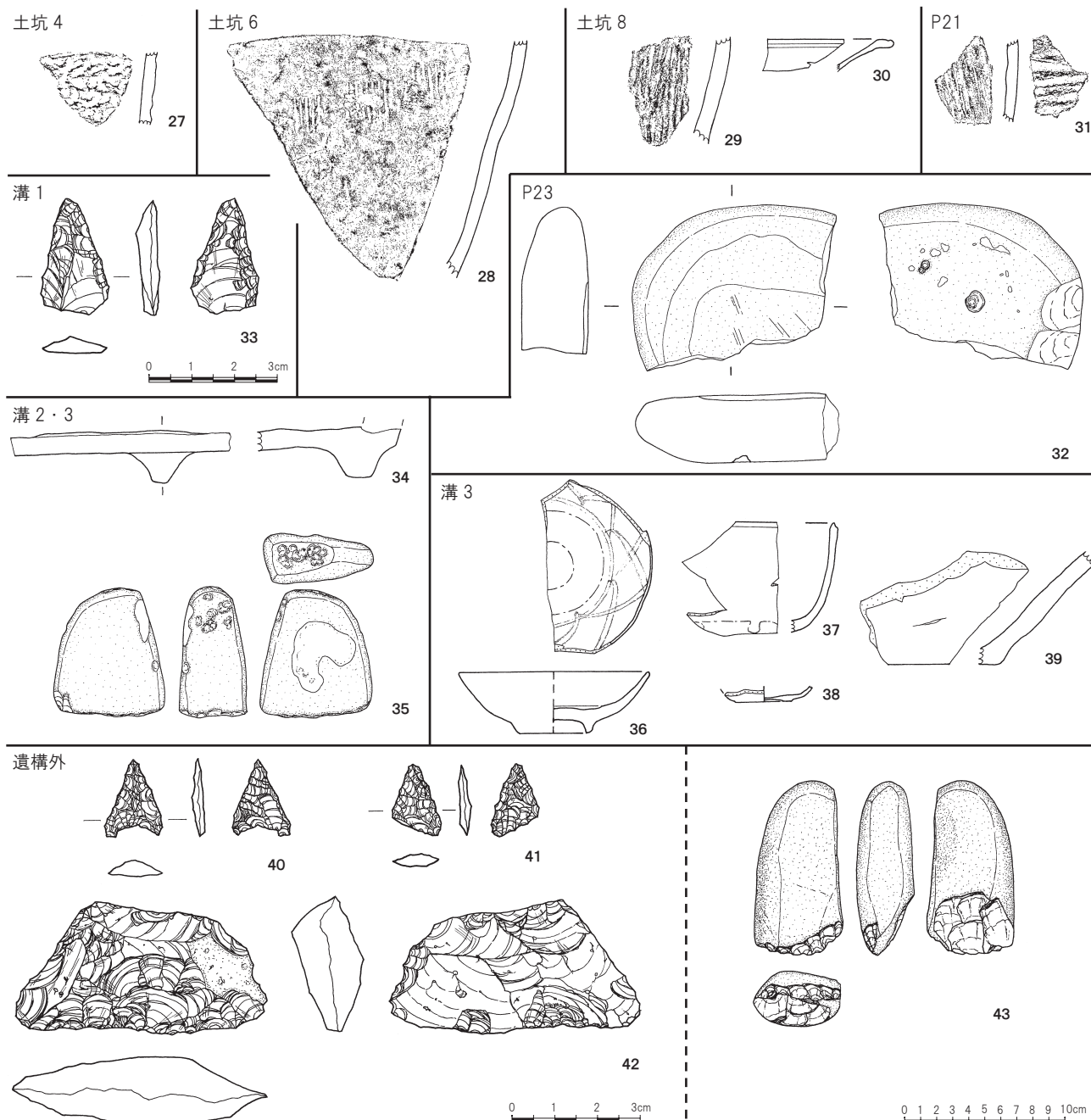
第 14 図 長宮遺跡第 34 地点出土遺物① (1/4)

29 と 31 は表裏に条痕文を施し胎土に繊維を含む早期後半の条痕文系土器である。井戸6・8・9、土坑

6・8、ピット23、溝、遺構外出土遺物については第7表遺物観察表のとおりである。

第7表 長宮遺跡第34地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

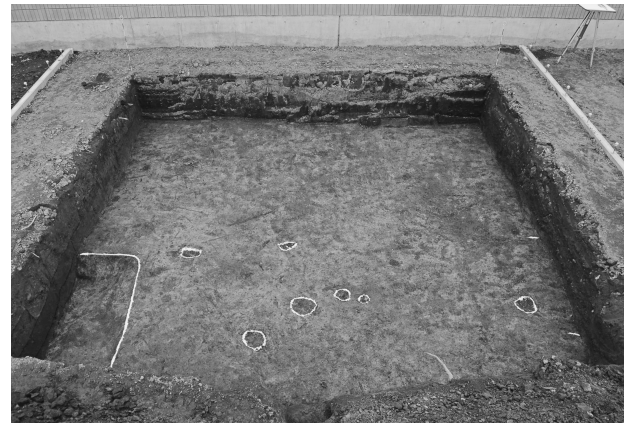
No.	出土遺構名	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重さ	技法・文様・その他	推定産地	推定年代
19	井戸6	石製品 / 磁石	8	3.7	2.6	85.4	石質：火成岩、本来は灰白色だが赤褐色を呈す	群馬県	—
21	井戸8	石器 / 磨製石斧	12.9	6.1	3.2	444.6	石質：砂岩	—	縄文時代
22	井戸9	陶器 / 片口	—	—	0.5	—	轆轤成形 / 灰釉	瀬戸・美濃	1780～1840年代
23		陶器 / 碗 / せんじ碗	—	—	0.3	—	轆轤成形 / 灰釉	京・信楽	1730～1820年代
24		陶器 / 甕	—	12	0.8	—	轆轤成形 / 鉄釉 / 見込に目痕 / 胎土に黒色粒多く含む	瀬戸・美濃	1700年代～
25		土器 / 火鉢	—	—	1.5	—	紐轆轤成形 / 型押菊文	在地	近世
26		陶器 / 撥鉢	—	—	0.8	—	轆轤成形 / 鉄釉 / 櫛目9本単位	瀬戸・美濃	1800年代～
28	土坑6	焼締め陶器 / 大甕、転用磁石	—	—	0.9	—	紐造り成形 / 叩き目痕、内面と割れ口に擦痕有り、転用磁石	渥美	12c末葉
30	土坑8	陶器 / 皿	—	—	0.3	—	轆轤成形 / 灰釉	瀬戸・美濃	—
32	P23	石器 / 凹石	—	—	4.2	853	石質：安山岩	—	縄文時代
33	溝1	石器 / 石鏃	2.6	1.6	0.4	1.64	石質：黒曜石	—	縄文時代
34	溝2・3	土器（瓦質） / 火鉢か？	—	—	3.1	—	轆轤成形 / 足貼り付け	在地	近世
35		石器 / 磨石	7.8	6.8	2.8	325.1	石質：砂岩	—	縄文時代
36	溝3	磁器 / 皿 / 染付輪壳皿	12	4.5	3.8	—	轆轤成形 / 染付 / 二重網目文	肥前	1690～1770年代
37		陶器 / 碗 / 灰釉丸碗	—	—	0.3	—	轆轤成形 / 灰釉	瀬戸・美濃	1650～1830年代
38		土器 / 灯明皿	—	3.3	0.3	—	轆轤成形 / 糸切底	—	—
39		焼締め陶器 / 大甕	—	—	1.35	—	紐造り成形 / 胎土：赤褐色	常滑	—
40	遺構外	石器 / 石鏃	2.0	1.4	0.3	0.44	石質：黒曜石	—	縄文時代
41		石器 / 石鏃	1.6	1.3	0.25	0.45	石質：黒曜石、脚部一部欠損	—	縄文時代
42		石器 / 掻器	2.9	5.8	1.4	24.6	石質：黒曜石	—	縄文時代
43		石器 / 打製石斧	10.9	5.3	3.6	297.05	石質：砂岩	—	縄文時代



第15図 長宮遺跡第34地点出土遺物② (1/4・2/3)



長宮遺跡第 34 地点 A 区南側部分全景



長宮遺跡第 34 地点 A 区北側プラン全景



長宮遺跡第 34 地点 B 区北側部分全景



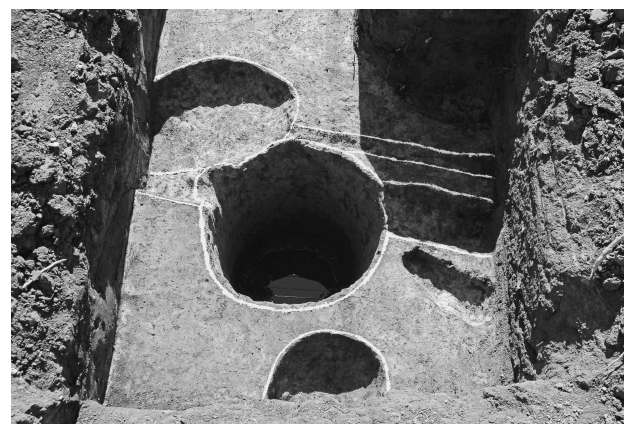
長宮遺跡第 34 地点 B 区南部分全景



長宮遺跡第 34 地点トレンチ 5 ピット群



長宮遺跡第 34 地点 E 区全景



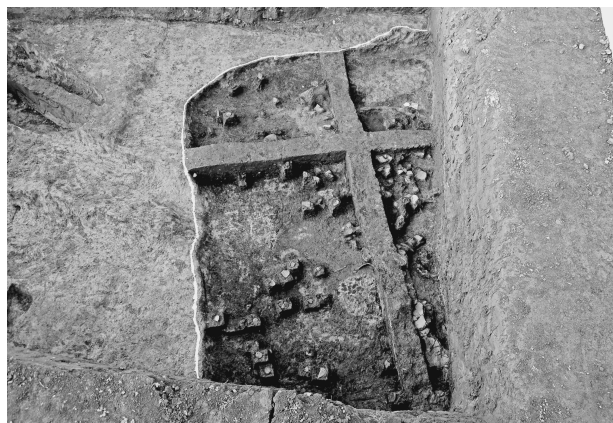
長宮遺跡第 34 地点 E 区全景



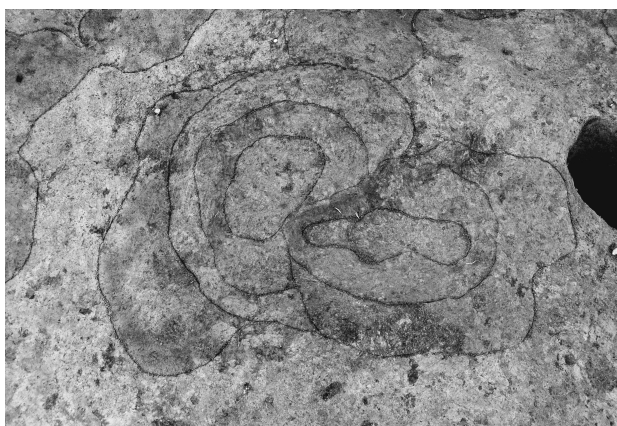
長宮遺跡第 34 地点 J9 号住居跡全景



長宮遺跡第 34 地点 J9 号住居跡遺物出土状況



長宮遺跡第 34 地点 J9 号住居跡遺物出土状況



長宮遺跡第 34 地点 J9 号住居跡炉



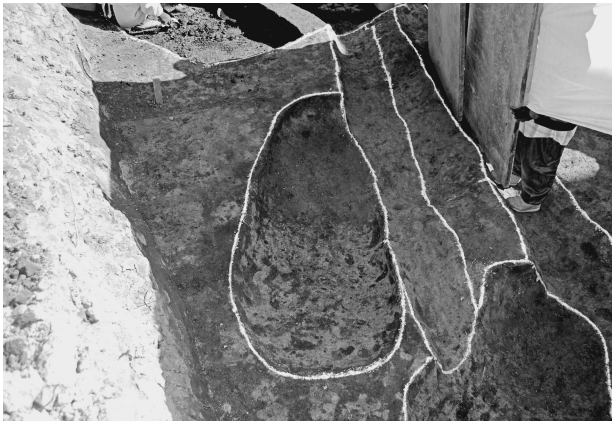
長宮遺跡第 34 地点 J9 号住居跡全景



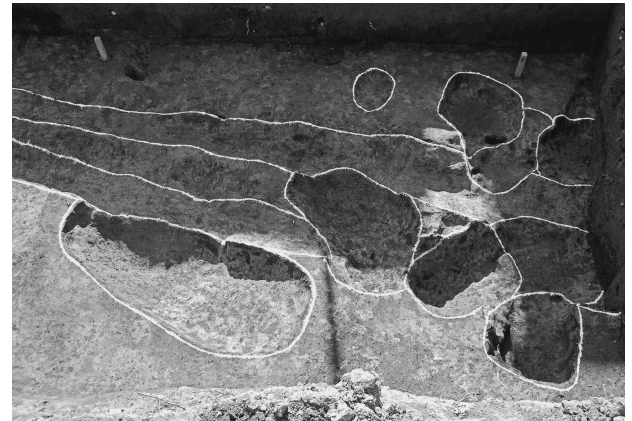
長宮遺跡第 34 地点 J9 号住居跡遺物出土状況



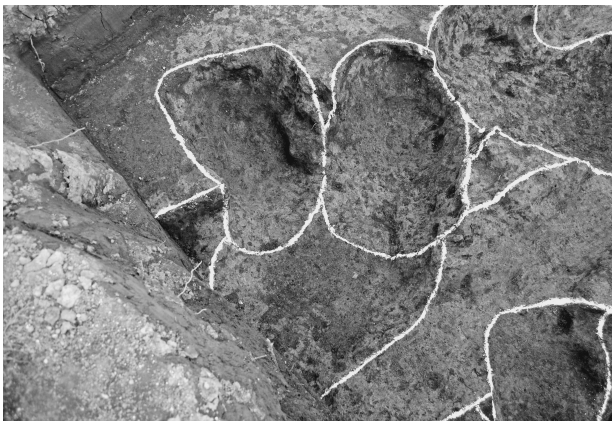
長宮遺跡第 34 地点 J9 号住居跡遺物出土状況



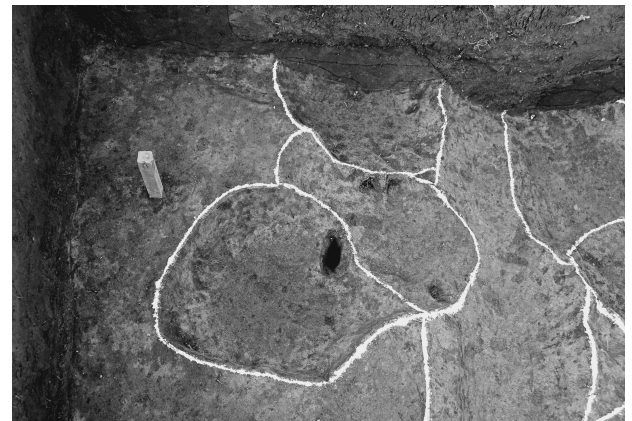
長宮遺跡第 34 地点炉穴 1



長宮遺跡第 34 地点炉穴 1 ～ 8



長宮遺跡第 34 地点炉穴 2・6・7



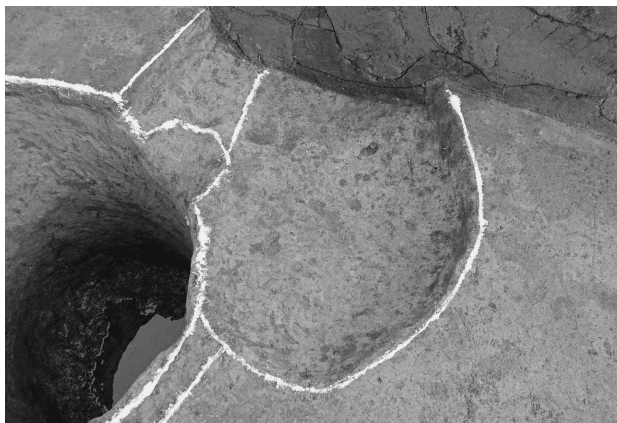
長宮遺跡第 34 地点炉穴 4・5・8



長宮遺跡第 34 地点炉穴 9 遺物出土状況



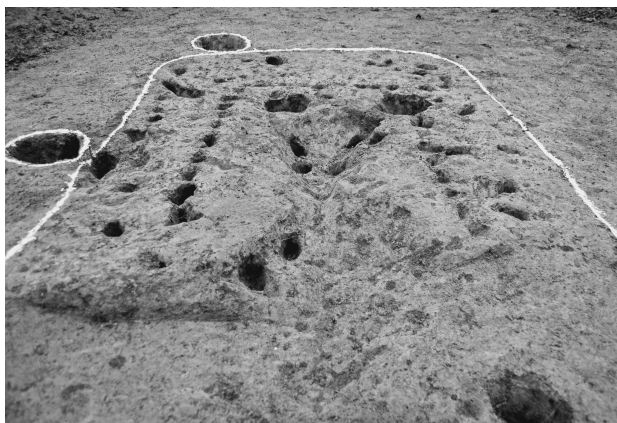
長宮遺跡第 34 地点炉穴 9・11



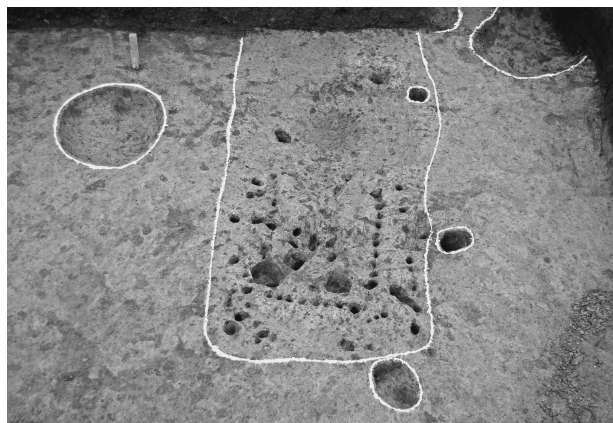
長宮遺跡第 34 地点炉穴 10



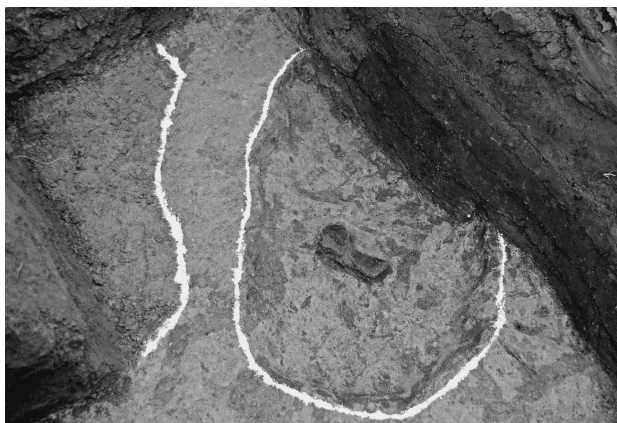
長宮遺跡第 34 地点炉穴 11 遺物出土状況



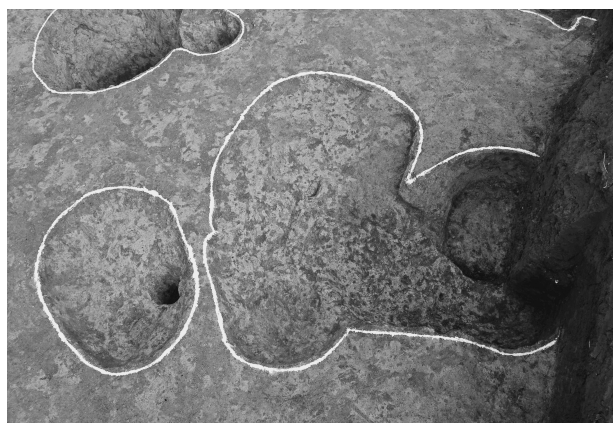
長宮遺跡第 34 地点炉穴 12 と小ピット群



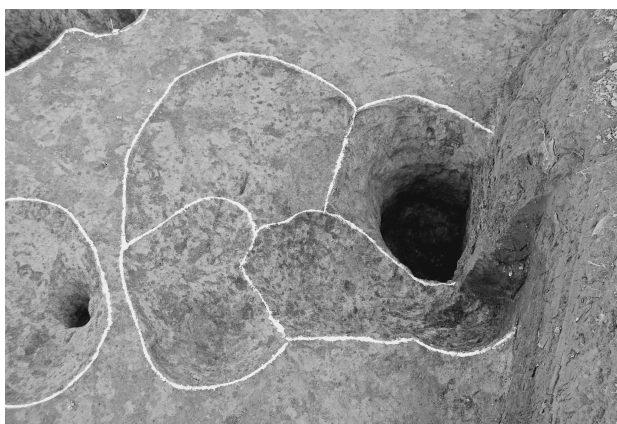
長宮遺跡第 34 地点炉穴 12 と小ピット群



長宮遺跡第 34 地点炉穴 13 遺物出土状況



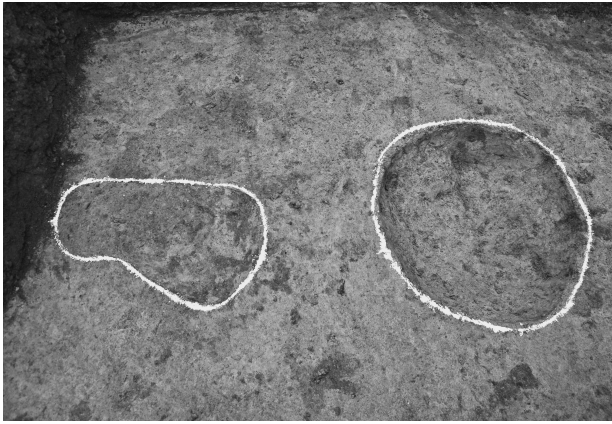
長宮遺跡第 34 地点炉穴 14



長宮遺跡第 34 地点井戸 2・炉穴 14



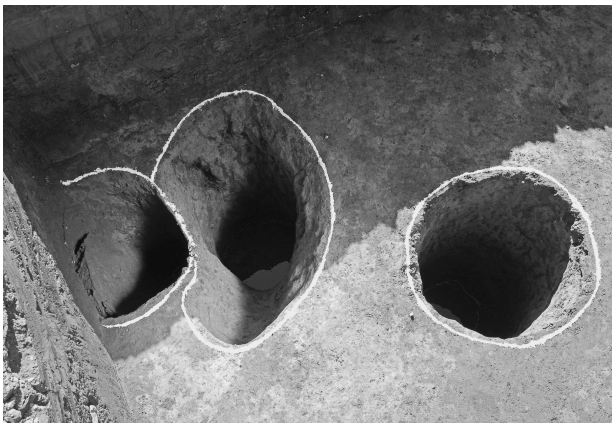
長宮遺跡第 34 地点炉穴 15



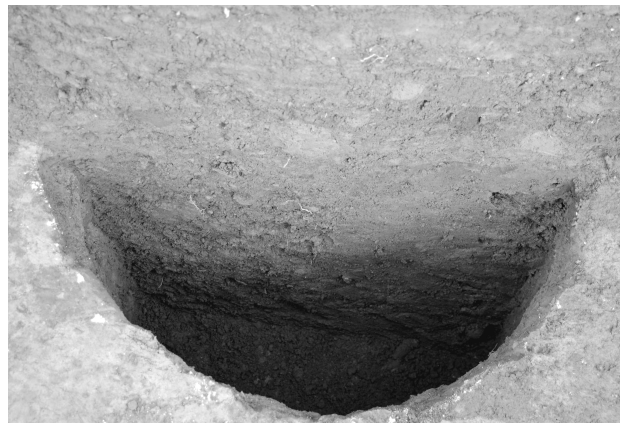
長宮遺跡第 34 地点炉穴 25・土坑 14



長宮遺跡第 34 地点井戸 1・P21



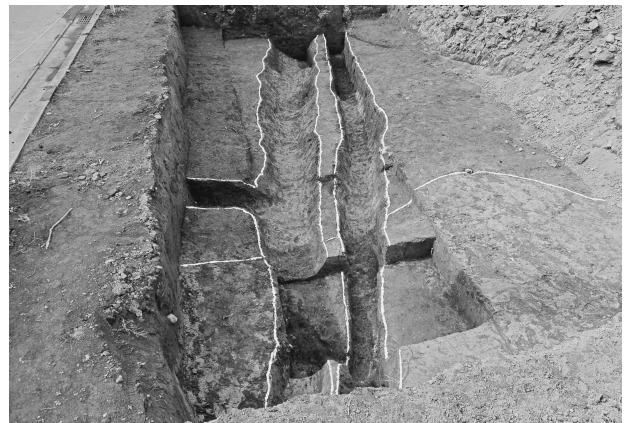
長宮遺跡第 34 地点井戸 5～7



長宮遺跡第 34 地点井戸 9



長宮遺跡第 34 地点井戸 4～7



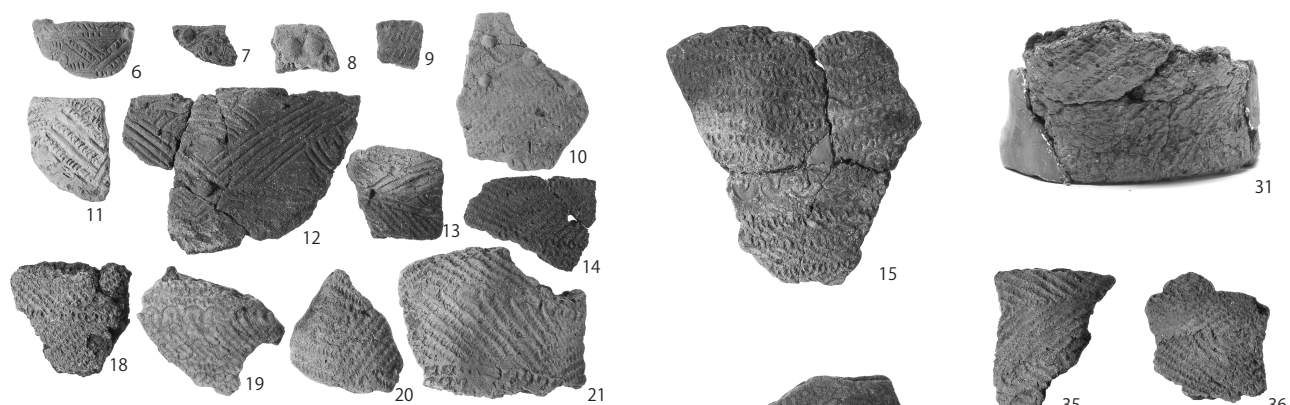
長宮遺跡第 34 地点溝 1～4



長宮遺跡第 34 地点調査風景



長宮遺跡第 34 地点 J9 号住居跡出土土器 No.1 ~ 5・29・30

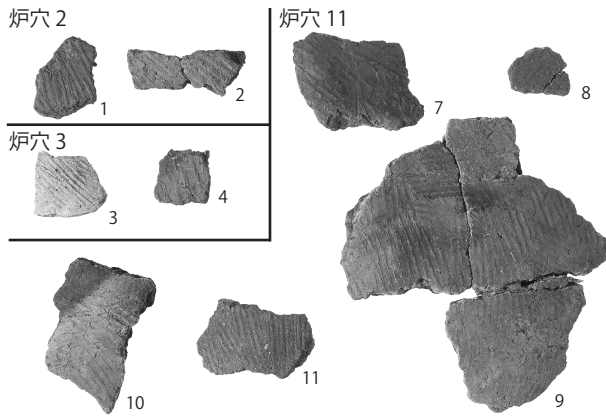


同上 J9 号住居跡出土土器 No.6 ~ 14・18 ~ 21



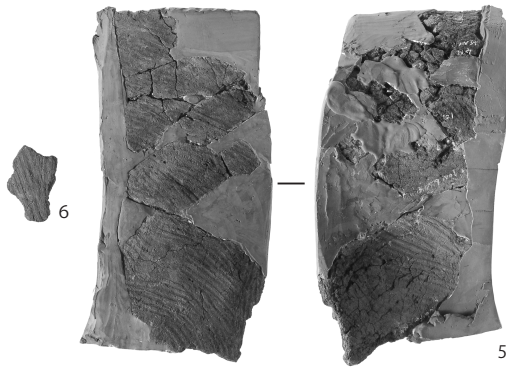
同上 J9 号住居跡出土土器 No.15・16・31・35 ~ 38

同上 J9 号住居跡出土土器 No.17・22 ~ 28・32 ~ 34

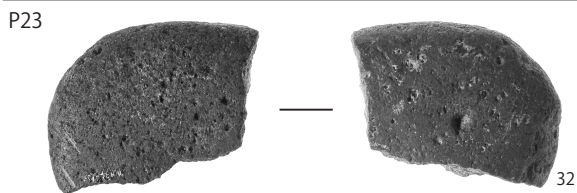


長宮遺跡第 34 地点炉穴出土土器 No.1 ~ 4・7 ~ 11

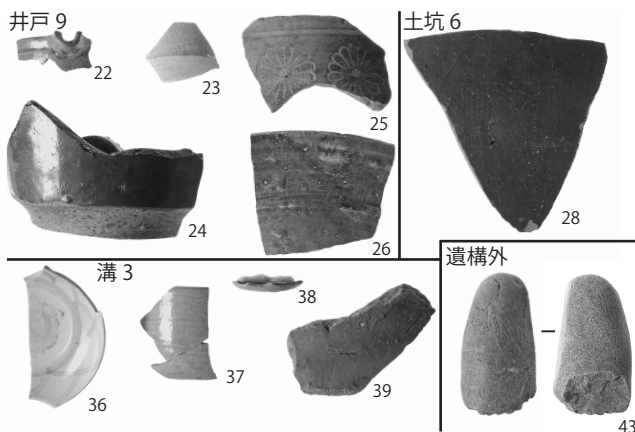
炉穴 9



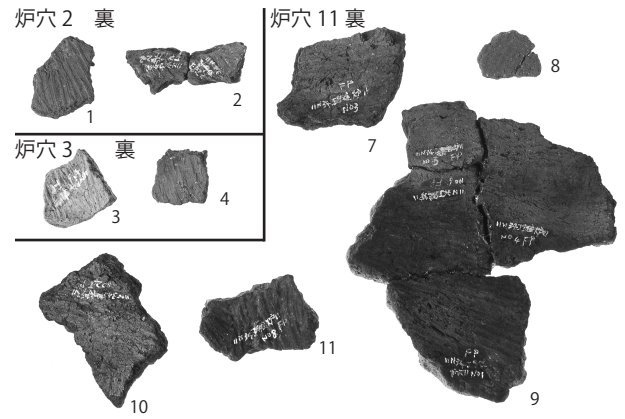
長宮遺跡第 34 地点炉穴出土土器 No.5・6



同上 井戸・ピット出土遺物 No.19 ~ 21・32

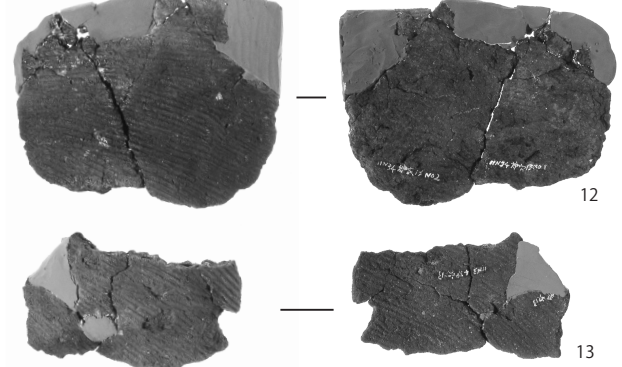


長宮遺跡第 34 地点井戸・土坑・溝・遺構外出土遺物 No.22 ~ 26・28・36 ~ 39・43

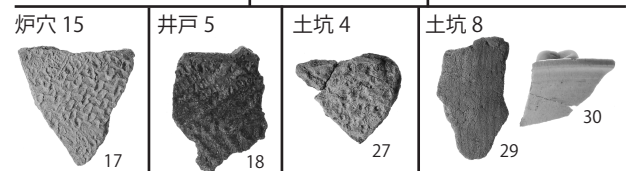
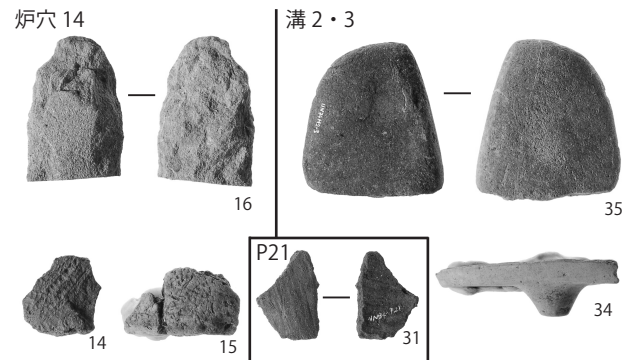


長宮遺跡第 34 地点炉穴出土土器 No.1 ~ 4・7 ~ 11

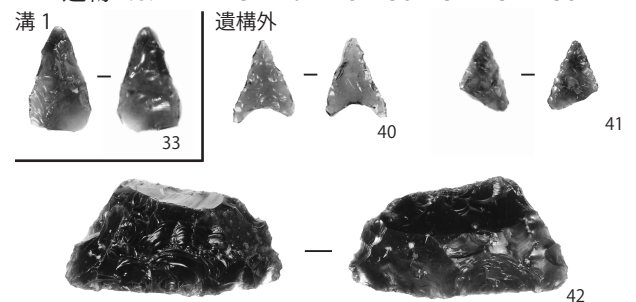
炉穴 13



長宮遺跡第 34 地点炉穴出土土器 No.12・13



長宮遺跡第 34 地点炉穴・井戸・土坑・ピット・溝出土遺物 No.14 ~ 18・27・29・30・31・34・35



長宮遺跡第 34 地点溝・遺構外出土遺物 No.33・40 ~ 42